

41090
43215

教科書文庫

4

291

41-1944

2000
302557

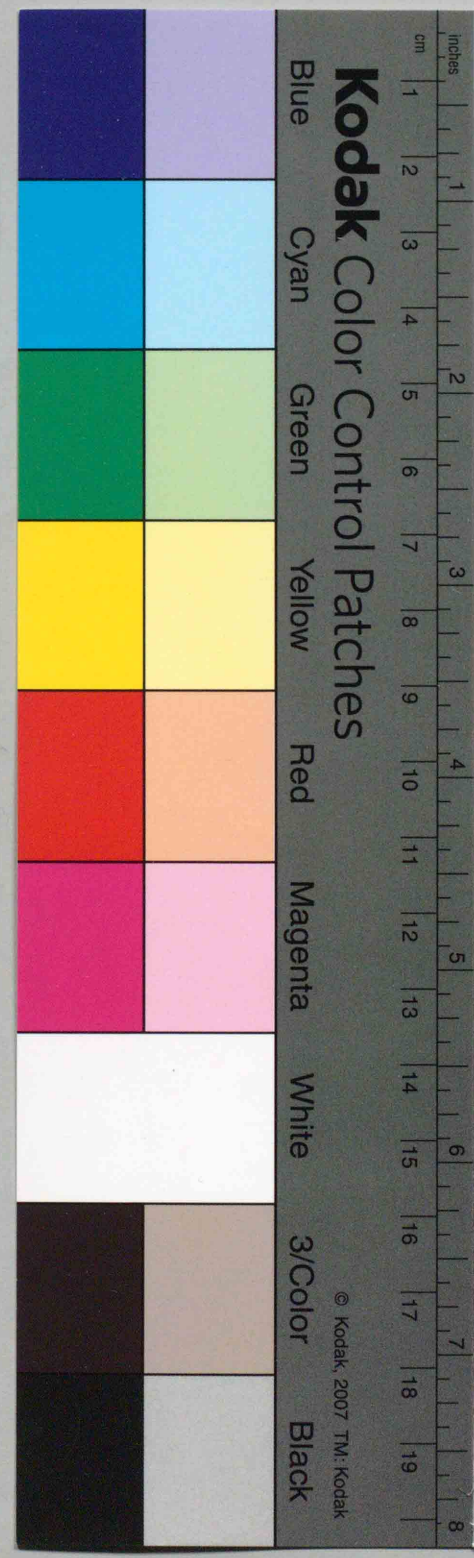
Kodak Gray Scale



© Kodak 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Color Control Patches



© Kodak 2007 TM: Kodak



3759
M014
資料室

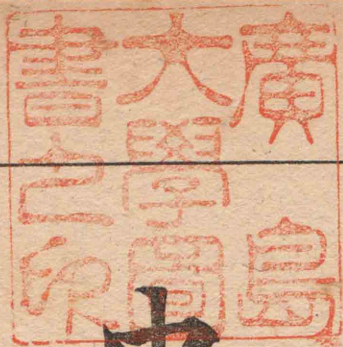
中等地理 二

文部省

教科
41-
2000

(51)





教科書文庫
4
291
41-1944
2000302557

中
等
地
理

広島大学図書
2000302557



文
部
省



(51)

資 料 室

325.9
M014

目 録

第一 わが國の概観……………四

第二 中央地域……………十八

一 自然環境……………十八

二 農業と牧畜・林業……………二十五

三 水産業……………三十五

四 鑛業……………三十七

五 商工業と都市の發達……………四十

第三 北方地域……………四十九

一 北方の開拓……………四十九

二 自然環境……………五十二

三 農業の發達……………五十四

第四 西方地域……………六十一

一 本土との關係……………六十一

二 自然環境……………六十四

三 産業その他……………六十六

第五 南方地域……………七十五

一 南進日本の基地……………七十五

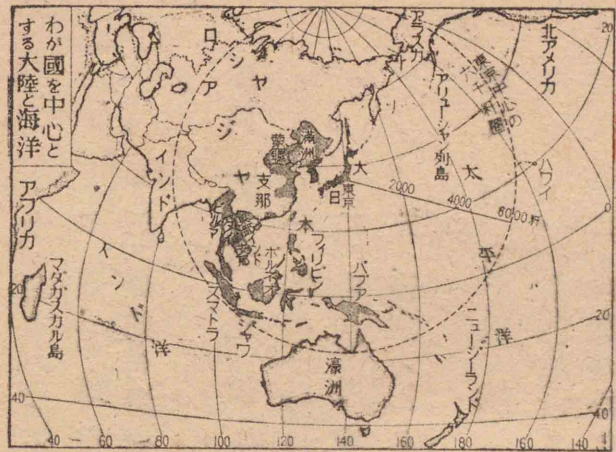
二 自然の特色……………七十六

三 産業と住民……………七十九

四 南洋群島……………八十四



第一 わが國の概観

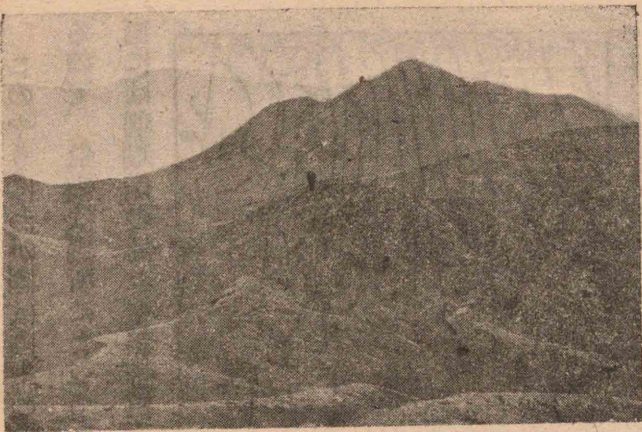


わが國は地球上最大の陸地と最大の海洋とを結び合はせる極めて特殊な位置を占めてゐる。西と北とは内海を隔ててアジアの大陸を控へ、南は大小無数の島々の散在する熱帯の海を越えて濠洲に對し、東は遠く打ち開けた太平洋に面してゐる。この海陸の配置から見たわが國の位置は、榮え行く大東亞の中心として、まことにふさはしい。

わが國は海によつて自由到大東亞の諸地域と連絡することができるとばかりでなく、大陸との交通も便利である。海路の利用からいつて、太平洋とインド洋とが、南方の島々の間にある自然の通路で結ばれてゐることは甚だ有利である。又、一方、海に圍まれた國であることは、國防上極めて重要な點

で、昔はもとより、今日といへども、國境としての海の存在には大きな意義がある。

霧島山

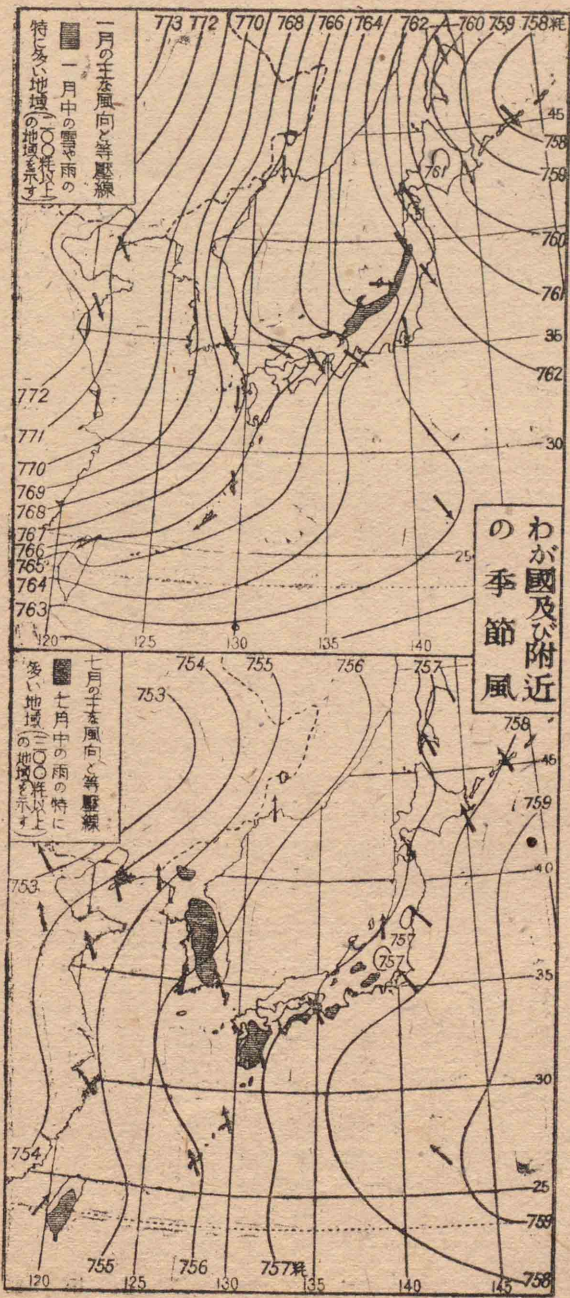


わが國は大きな褶曲山脈が骨組となつてゐる山岳地域であり、又、太平洋をめぐる世界の主な火山帯及び地震帯に當つてゐるので、地勢や地質が甚だ複雑である。即ち地勢に就いてみれば、國土の主體が數多の島々から成り立つ列島をなし、それらの島は大きさや形はもとより、土地の高低起伏、海岸線の出入などにさまざまの相違を示してゐるが、いづれも山がちで、広い平野や盆地に乏しい。

わが國は歴史的並びに地理的觀點に基づいて、本州・四國・九州を含む中央地域、北海道・樺太・千島を含む北方地域、朝鮮・關東州を含む西方地域、臺灣・南洋群島を含む南方地域の四つに大きく分けて考へることができる。その總面積は約六十八萬平方軒（約四萬四千方里）で、決して大きいとはいへないが、北東から南西へ長く連なる日本列島を中心に、朝鮮・南洋群島等を包含する國土の廣がり

は、實に廣大な範圍に亙つてゐる。

このやうにわが國は國土の廣がりが大きく、地勢が複雑である上に、海流・風等の影響も加るので、氣候は場所によつてさまざまである。北には寒帶性の泥炭地や、凍結する海岸があり、南には珊瑚礁の島々や熱帶植物の茂る地方も見られる。しかし、わが國全體からいへば、冬は



冷たい乾いた風が大陸から吹き寄せ、夏は暑い湿つた風が太平洋から吹き寄せ、この季節風が、氣候を大きく左右してゐる。随つてわが國は、夏冬の氣温の差が比較的大きく、雨量も甚だ豊かである。夏から秋にかけては熱帶颶風(颱風)、冬から春にかけては温帶颶風(颱風)が屢々襲つて来る。これらは初夏の梅雨と共に、氣温や雨量に大きな季節的變化を與へてゐる。

かうしたわが國の氣候は、一般的にみて變化に富んでゐるだけでなく、更に複雑な地勢に伴なふ地方的差異も著しい。一方、暴風雨による大きな災害は、地震・津波・火山の爆發等によるものと共に、わが國に多い天災の一つである。随つて國民性にも大きな影響を與へてゐることは看過することができない。國民はよくこれら災害の試煉に耐へ、その克服に努めて來たのである。

その反面、季節による氣候的變化の多いことは、國民の心身によい刺激となり、生活に潑刺とした活氣を與へるばかりでなく、寒冷な土地にも炎熱の土地にも發展し得る適應性を培ふ上に與つて力がある。しかも、わが國に於ける自然の風物が、四季とりとへに移り變りの鮮かさを示すことは、國民の心を美しく豊かにしてゐるのである。このやうな氣候は、作物の種類を豊富にする上に重要であるし、特に夏の暑さと多量の雨とは、主作物である米作に適してゐる。

神代以來米作に努め、他の作物に頼つてゐては到底望めない多くの人口を養つて來たのも、このやうな氣候と、土を尊ぶ國民のたゆまぬ努力との賜物である。

しかし、國土の大部分が山地であるから、耕地は甚だ少い。傾斜地には階段狀に田畠を作つたり、濕地や海岸などを埋め立てたり、行き届いた耕地整理を施したりして、あらゆる土地をよく利用してゐるが、なほ耕地は全土の僅か一割七分にしかならない。しかし、わが國には約四千萬の農業人口があり、この狭い耕地から、一億の人口を養ふ食糧を生産してゐるのであつて、耕地面積に對する人口は世界で一番多い。そのため、わが國の農業はいきほひ食糧の生産に集中した。二毛作が廣く普及してゐる上に、勞力や肥料を惜しまず、灌漑その他あらゆる施設に力を注いで、狭い土地からできる限りの收穫をあげる集約農業が著しく發達してゐる。

米は季節風帯に最も適した作物で、わが國ばかりでなく、大東亞諸民族にとつて大切な食糧となつてゐる。主として水田に栽培され、わが國でも耕地の五割以上は水田であり、樺太・千島等を除けば、全土に限なく米作が行なはれてゐる。わが國では永い間品種の改良や耕作法の

國土總面積中
耕地の割合
日本 一七(割)
ドイツ 四・一
英國 二・三
ロシア 一〇
米國 一七

工夫が續けられた結果、獨得の品質を誇る良米を作りあげること成功すると共に、米作の限界を次第に北へと進めて行つた。このやうな努力は、收量の上でも他の追隨を許さない成績を擧げてゐる。

米は、中央地域では耕作がよく行き渡り、收穫高も大きい、なほその需要に對して少からず不足してゐる。北方地域も不適當な氣候に對し努力を重ねてゐるが、まだ米作地が限られてゐるので、人口の少いにも拘らず米は不足してゐる。西方地域・南方地域は、共に耕地の割合が中央地域よりも多く、一段歩當りの收量では遙かに劣つてゐるが、大きな移出能力がある。麥類は水田の裏作や畠の主作物である。その中でも大麥は最も産額が多く、昔から米に次いで主食物として用ひられてゐる。そのほか、小麥・雜穀・甘藷・馬鈴薯等も重要な食糧である。食糧の自給が國防上緊要であることはいふまでもなく、又、産業の健全な發達のためにも是非必要である。特に戦時下のわが國では、米の自給を始めとして、他の食糧作物に就いても、その増産に非常な努力を拂つてゐる。

養蠶は農家の副業として古くから行なはれ、一般に他の作物に適しない土地を桑畠に開いて、土地の利用が圖られて來たが、明治維新後、生絲が重要な貿易品となるに及んで、その技術・

生産共に急速な進歩發達をみるに至つた。生絲はわが國産纖維として世界第一の産額を示し、從來その大部分を米國へ輸出してゐた。現在では情勢の變化に應じて、貿易品としてではなく、軍需その他、國內に於ける需要を満たすに必要な生産を確保することとなつてゐる。

國土の八割を占める山地には概ね森林が茂つてゐて、森林面積の割合の多いことは世界有數であるが、伐採・運搬に不便な缺點を伴なつてゐる。しかし、戦時下木材の急需にこたへて、森林の開發に大きな努力を拂つてゐる。殊に平地に廣い森林のある北方地域は、パルプ原料のために、盛んな林業地となつてゐる。

わが國では、牧畜は古くから餘り振るはない。それは風土の關係にもよるが、又、土地が狭く、耕作に全力を注いだのと、農耕に畜力を使用する餘地が少く、且つ、一般に獸肉を食用としなかつたことなどによるのである。近來、畜產品の用途が増加するにつれて、家畜の改良や増殖が圖られてゐる。牧畜は普通、農家の副業として行なはれ、世界の牧畜國に於けるやうな大規模の牧場經營は見られないが、農業と切り離すことのできない關係にある。

わが國の近海には陸棚が發達し、又、寒暖の海流が流れてゐるので、海の幸は極めて豊かで、漁業は太古から盛んに行なはれ、漁獲物の利用も進んでゐる。蛋白質の攝取に必要な肉食を水

産物によつて満たすことのできたわが國では、肉を得るための牧畜を要しなかつた。かうした國からであるから、魚介類の調理の上にも獨得の工夫や趣向が現れてゐる。新鮮な魚介を生のまま、て賞美する習慣などもその一つである。漁法や航海術が進歩するに従つて、遠洋漁業も年盛んとなり、今や世界無比の廣大な海域を活躍の舞臺として、世界の五分の二を占める漁獲高を誇るに至つた。

農業は古來わが國産業の大本として、國民の生活を支へて來たものであるが、明治以後の急激な國力の充實と人口の増加とによつて工業が躍進し、農業と並び立つに至つた。農産物や林産物に加工する手工業は、主に農家の副業として各地で古くから行なはれ、その地の風土・生活等に適合した郷土色の豊かな工作品が作り出されてゐた。中には織物・漆器・陶磁器等のやうに、その地の主な産物となつて獨得の技術を生み、日本人のすぐれた創作力を示すものも少なくない。しかし、これらは多くは家内工業として小規模に行なはれたもので、工場を建て機械を据ゑ、動力を用ひる大規模な工業が行なはれるやうになつたのは、明治以後のことである。

この短い間に廣く諸外國の長所を取り、独自の工夫を凝らして、世界に類のない目ざましい發展を遂げ、工業國としての高い地位を作りあげた。それには國民の素質も與つてゐるが、勞

働力や食糧を豊富に供給した農村の大きな功績を忘れてはならない。

わが國の諸工業中最も早く家内工業から工場工業に移り、工業生産の首位を占めたのは、纖維工業である。殊に綿工業は急速な發達を遂げ、廣く世界の市場に進出して、從來獨占的地位を誇つてゐた英國製品を壓倒するに至り、わが製品は世界の隅々までも行き渡る勢であつた。これに伴なつて綿の消費量も激増し、その殆ど大部分を米國・インド等から輸入してゐた。

他の工業もこれと同様、わが國では輸入原料によつて發達したものが多し。鐵・ゴム・羊毛等の諸工業はその主な例である。つまり、原料を買つて製品を賣るといふ形式を取つて來たのであり、それにはすぐれた技術と勤勞とを要し、國民の能力が工業を左右してゐるのである。

現在では國家の要求に應じて、工業の重點も纖維工業などの輕工業から、各種の重工業・化學工業へ移り、それらの製品も國內自給から大東亞各地へ向かつての供給へと發展した。更に時局の進展につれて、軍需工業の擴充が急務となつた。鑛山の採掘、水力の利用等を始め、各種資源の開發が一段と促進されてゐるのはそのためである。工業の發達につれて工業人口も目立つて多くなり、特に最近十年間には約三倍に激増し、人口の上でも農業と並び立つてゐる。その中で女子の割合も頗る多く、とりわけ纖維工業は、これまでその勤勞に負ふところが大き

かつたが、最近では軍需工業への進出も著しい。

わが國の工業は、主として中央地域に於ける京濱・名古屋・阪神・北九州の四大工業地帯を中心として行なはれてゐる。これらの工業地帯は次第に周圍に膨脹し、附近一帯を工業化して來たが、今日では國防上の立場から、工場分散が圖られてゐる。

その他、北方・西方・南方の諸地域でも、それ々々特有の工業を戰力增強の立場から一層促進せしめると共に、更に新しい工業の躍進が圖られてゐる。

わが國に於ける通信機關と陸・海・空の交通も、短期間に著しい發達を遂げた。わけても海運の發展には目ざましいものがある。もと々海洋國のわが國は、忽ち世界屈指の海運國たる

地位を獲得し、近海はもとより世

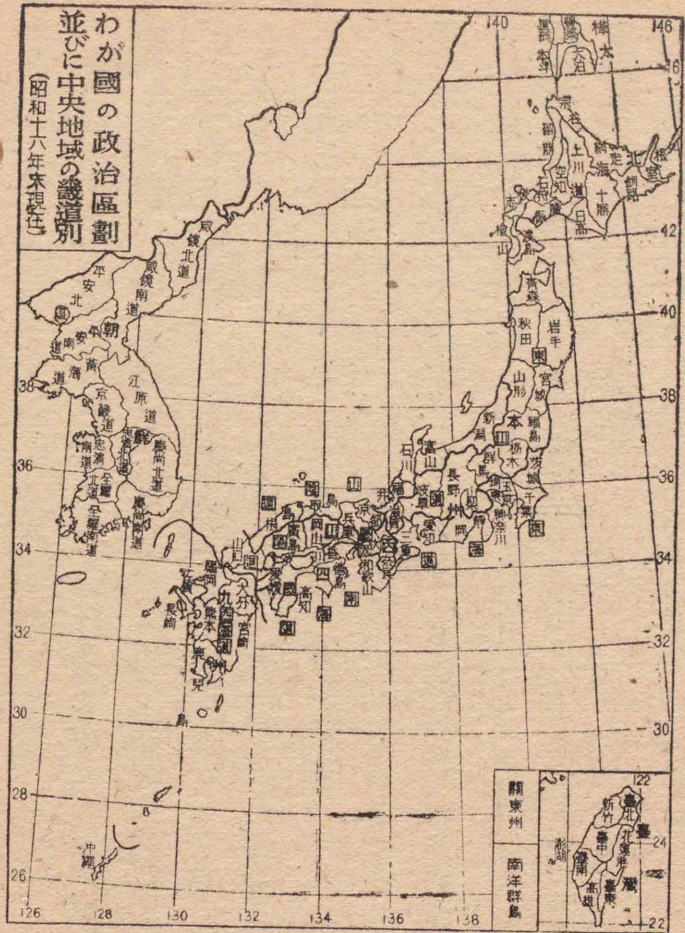
界各地に航路が開かれるに至つた。

豪華な客船を誇るよりも貨物船を主體とし、大きな輸送力を發揮して世界の海運に盡くして來た。大東亞共榮圈の建設につれて、わが

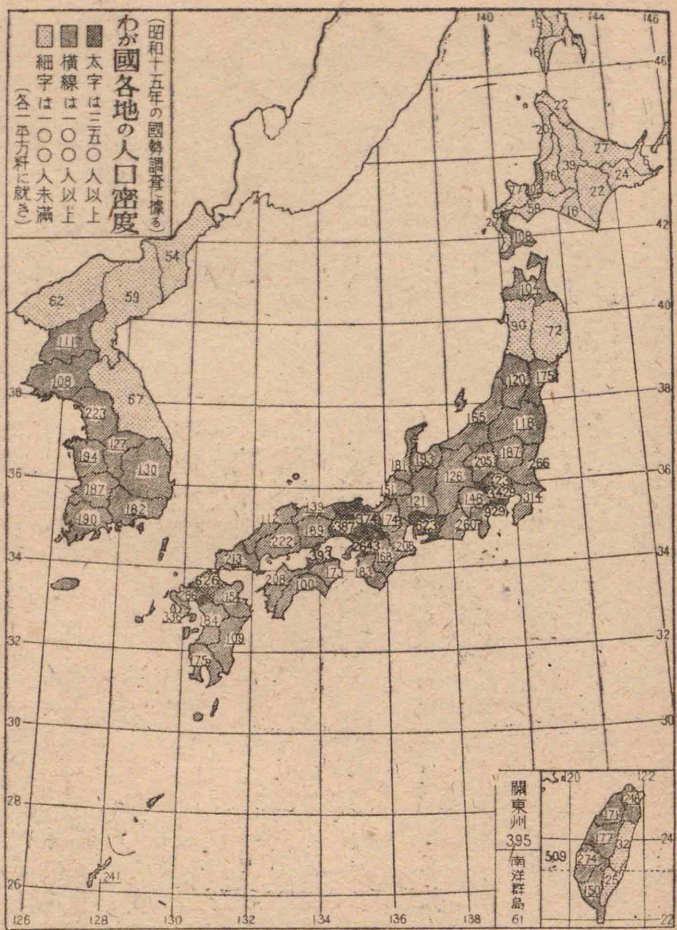
面	積	人	口	全面積に對する	全戸數に對する
	(單位萬平方浬)	(單位萬)		耕地面積の割合	農業戸數の割合
中央地域	二九・四	六九八四	一・七(割)	四・〇(割)	
北方地域	一一・五	三六九	〇・八		三・二
西方地域	二二・四	二五六九	二・一		六・七
南方地域	三八	六〇〇	二・三		四・一
全 國	六八・一	一〇五二二	一・七		四・六

海運の任務は愈々重大となつてゐる。

わが國は瑞穂の國の名にふさはしく、古來、國民は土を尊び農を本とし、中央地域を國土の

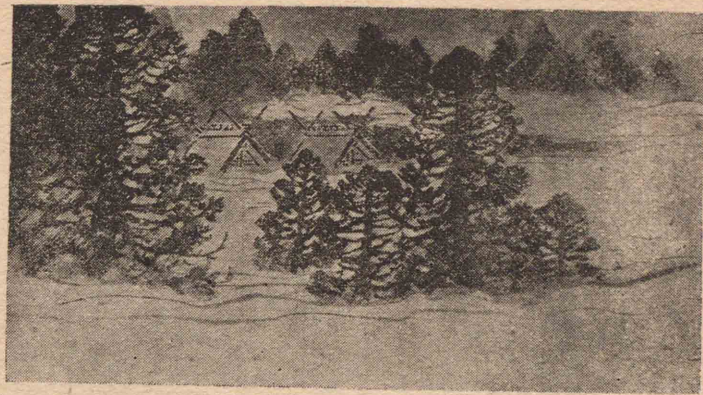


中心として榮えて來た。その尊い史蹟は、今もなほ大和・山城等の諸地方を始め、到る所によく保存されて、文化發展の跡をとめてゐる。この間山野を開き、耕地を擴げ、都邑も各地に見られるに至つた。一部の國民はつとに北方地域へも進出してゐたが、明治維新までは専ら内の充實に努め、外への國土發展はなかつた。



明治維新以來國力が充實するに伴なつて、諸般の制度もよく整ひ、農業のほか工業を始め多くの産業が並び進み、人口もまた増加の一途をたどつた。北海道の開拓がはかどり、樺太や西方・南方の各地域が國土に加るに及んで、國勢は一

段と伸張した。さうして今度は一平方料百五十五人（一平方里二千三百九十人）で、世界に稀な人口稠密の國となつてゐる。中でも中央地域は人口約七千萬、その密度は實に二百三十八人（一平方里三千六百七十人）に及



び、世界の人口最稠密地の一つをなしてゐる。

工業人口が激増して、人口が著しく都市へ集中したにも拘らず、なほ人口の四割餘りは農業者である。随つて、耕地に對する農業人口は頗る多く、農業を一層集約的にしたばかりでなく、廣い未開拓地のある北方地域へ移住したり、或は滿洲やアメリカ大陸その他へ移住民として進出したりした者も少くない。

北方地域は、もと人口の極めて稀薄であつた所へ、中央地域から移住して勞力の不足や厳しい氣候にも屈せず、計畫的に荒野を開拓した所である。しかし、人口は約三百七十萬人、その密度はわが國でも最も低い地域で、僅かに二十九人（一平方里四百四十七人）である。これに對し、西方・南方の兩地域はもとノノ住民が多く、土地も相當に開けてゐた所で、いはゆる植民地とは全く趣を異にしてゐる。中央地域からの移住は餘り行なはれなかつたが、米作の改良を始め、適切な指導や施設のために見違へるやうに發展し、人口も大いに増加した。

西方地域では、人口は約二千五百七十萬人、密度百十五人（一平方里千七百七十三人）であり、南方地域では人口約六百萬人、密度百五十八人（一平方里二千四百三十六人）に達する。これら北方・西方・南方の各地域では、農業に従事する者の割合が多い。

中央地域から北方・西方・南方へと發展したわが國威は、更にその外側へと溢れ、大東亞各地との關係を愈々密接に行つた。

然るに、大東亞を侵して不當な搾取をこととしてゐた米・英等は、わが國の發展をねたみ、あらゆる手段を取つて行手を遮つたばかりでなく、わが國の存立さへも危くし、大東亞の民を永久にみじめな生活に縛りつけようとした。こゝに於いてわが國は、決然として起ち、大東亞と共に生き、共に榮えるために、一億國民の總力を舉げて米英と戦ひつゝ、共榮圈建設の完遂に邁進することとなつた。

今こそわれらは、神國日本の光輝ある歴史をはぐくんだ尊い國土の特質に深く思ひを致し、皇國の世界的使命の達成に奮起しなければならぬ。

第二中央地域

一 自然環境

中央地域は国土の中央を占め、弧状の列島中、面積も幅も一番大きな地域である。北には北海道・千島及び樺太の地域を控へ、南西は琉球列島によつて臺灣と結び、西はアジア大陸の一部をなす朝鮮半島に對してゐる。又、遠く南洋群島との間は、伊豆七島・小笠原群島によつて本州の中央部が結びつけられてゐる。

中央地域の骨格をなす山地は、概ね島の方向に走る多くの山脈から成り立つてゐる。これらの山脈はそれ〴〵性質も異なつてゐる上に、火山帯を伴なつてゐるので、甚だ複雑な地勢を示してゐる。

先づ北部では東側の北上山脈・阿武隈山脈と、中央の奥羽山脈と、西側の出羽丘陵・越後山脈とが三列になつて、略々南北に走つてゐる。全體的にみて高度は千米内外で、殊に東側の山

脈は峻しくないので、高い所まで村や牧場などが散在してゐる。連なる山並みを突いて高く聳え立つものは、多くは火山帯に屬する火山である。三列の山脈の間には幾つかの盆地が列をなして並び、それ〴〵の地方の中心をなしてゐる。

奥羽山脈の南には三國山脈・關東山脈等があつて、多くの火山と共に一連なりの山地を形づくつてゐる。さうして、これら山地の麓から太平洋側に廣がる沃野が、關東平野である。更にその西には、本州の中央を貫ぬく富士火山帯があつて、富士山を始め大小數多の火山が聳えてゐる。これと略々並んで走る飛驒・木曾・赤石等の諸山脈には峻しい峰々が連なつてゐて、本州中最も土地の高い、又、幅の廣い地域を

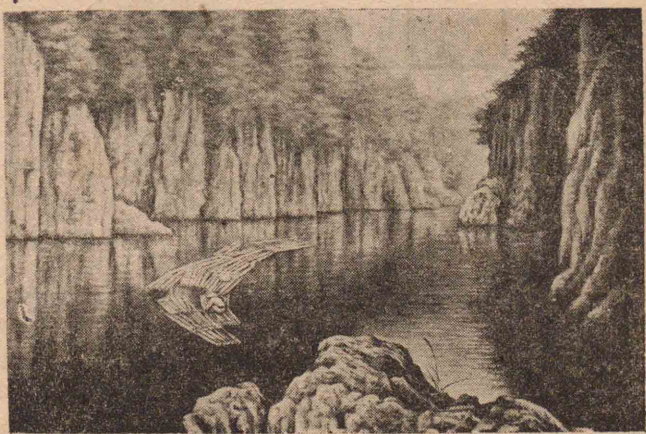


なしてゐる。この山岳地域では、狭い山間の盆地や、河谷或は高原の一部に、村落や耕地が開けてゐる。

本州中央の山岳地域は西へ次第に低くなつて、伊勢海に臨む濃尾平野や、琵琶湖をたゞへた近江盆地、出入に富む若狭灣などのある地域へ移つて行く。伊勢海と若狭灣との間は、本州の幅がぐつとくびれてゐる部分で、そこから大阪灣に至る間には低い山脈の列と幾つかの盆地とがある。

丹波高原から始る中國山脈は、北九州の筑紫山脈へ續くもので、一般に地勢が峻しくなく、所々に高原や小盆地が散在してゐる。又、日本海側に沿つて火山帯が通つてゐるので、火山も多く、これら火山の裾野や高原地帯は、牛の放牧地として利用されてゐる。

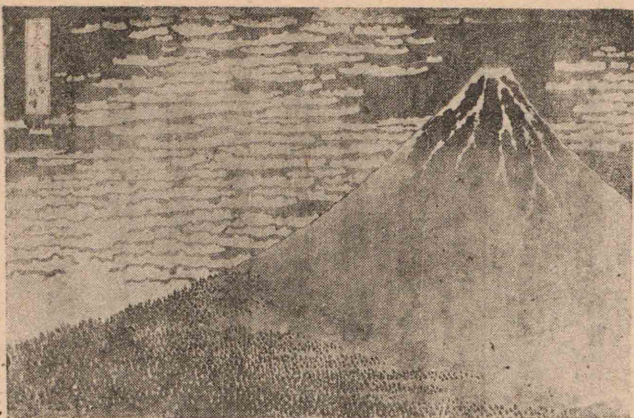
これらの山地とは別に、赤石山脈に續く紀伊山脈・四國山脈・九州山脈を連ねる山脈がある。これらの山脈には二千米に達するほどの高い峰はないが、一般



澗の深淵

に峻しくて、谷が深く、深山の姿をよく現してゐる所が多い。随つて、交通も不便で、人口も極めて稀薄である。

富士山



西部に於けるこれら二列の山脈の間に瀬戸内海地帯があつて、沿岸には大阪平野その他の平野を連ね、古くからよく開けてゐる。筑紫・熊本の兩平野や有明海などもこの低地帯の一部をなすもので、阿蘇火山帯は、この地帯に沿つて東西に延びてゐる。又、九州山脈の南から起る霧島火山帯は南へ延びて琉球列島へ通じてゐる。

各地に火山を見るわが國は、温泉には特に恵まれ、これらの温泉は、古くから國民の間に親しまれてゐる。

海の國日本は、このやうに山の國としての特色もまことに豊かで、到る所山岳・溪谷の美に恵まれ、山岳・丘陵の海に臨む所には、岬灣が出入し、島嶼が散在して、山と海との相呼應する佳景が展開してゐる。又、秀麗な火山は、各地の風景を一段と引き立たせ、特に富士山は、

その比類のない優美な姿のうちに、神々しい氣高さと尊さとがあり、わが國土の美を象徴する靈峰である。

川は概ね山地から狭い平地を通つて海に出るので、流れが急で、水運には餘り適しないが、水田の灌漑にはもちろん、水力發電にも盛んに利用され、山地では所々に發電所が設けられてゐる。湖沼も各地にあつて、中でも琵琶湖は特に大きく、漁撈や魚類の養殖が行なはれるほか、その豊かな水量は沿岸の人絹工業に役立つをり、又、八郎潟や霞浦など海岸の湖は漁獲物に富み、山間の湖は發電に適するものが多い。

主な山脈が大體、島の方向に走つてゐるので、主要な街道は昔から海岸地帯か山間の縦谷を通じてゐるものが多く、鐵道も東海道本線を始め幹線は概ね街道と同じ道筋をとつてゐる。山地を横斷する鐵道は敷設が困難なため、その發達も一般におくれたが、技術が進むにつれ、漸く連絡が整ふやうになつた。このやうに鐵道の敷設に不利な地勢の條件を克服して、中央地域では到る所に鐵道の便が開かれ、世界でも有數の發達を遂げてゐる。

海岸線を見れば、太平洋沿岸には房總・伊豆・紀伊等の半島を始め、多くの半島や灣があり、又、瀬戸内海沿岸や九州の北西岸は出入に富む上に、たくさん島々があつて、各地に良港が

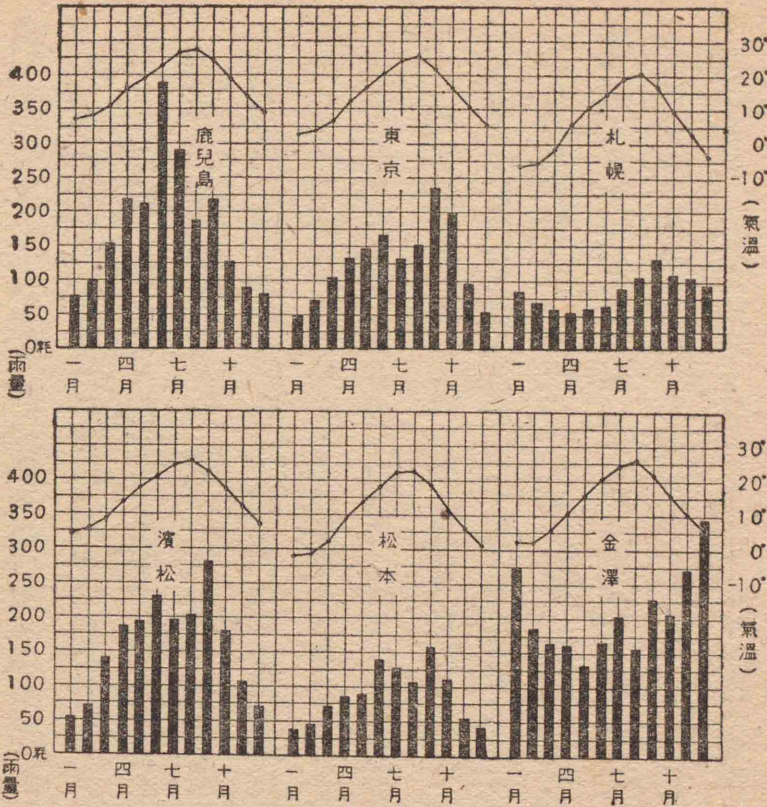
發達してゐる。それに反して、日本海沿岸は海岸線が概ね單調で、良港に乏しい。しかし、潮汐の關係からみると、九州の西岸や瀬戸内海などのやうにその差の大きい所では、干満の差の少ない日本海沿岸と違つて、船の出入に不便なため、築港に特別の設備を必要とする場合もある。陸上交通の不便な時代には、船の交通がその不便を補つてゐた。中でも瀬戸内海は最も重要な水路として古くから利用され、沿岸には早く港も發達した。

神武天皇御東征の御船路をこの水路にしのびまつることは、一しほ感銘が深い。又、この海が水軍の歴史に富むことも決して偶然ではない。無數の島々をちりばめた波靜かな内海ではあるが、鳴門海峡を始め、こゝかしこにある狭い海峡は、潮流が早いので知られてゐる。日本海の沿岸も、わが國と滿洲との連絡が益々密接となるに従つて、その重要性が高まつて來た。

中央地域の氣温は、東京の年平均十四度、大阪の十五度を中心として、北に進むにつれて次第に低くなり、南ではこれに反するが、北部の同じ緯度の所では、寒流のある太平洋沿岸よりも暖流のある日本海沿岸の方が高い。

降水量は、太平洋沿岸では夏に多く、特に梅雨や颱風などの關係で六月又は九月に最大となり、日本海沿岸では季節風の影響で冬多く、十二月に最大となるのが普通である。瀬戸内海や

各地の気温と雨量



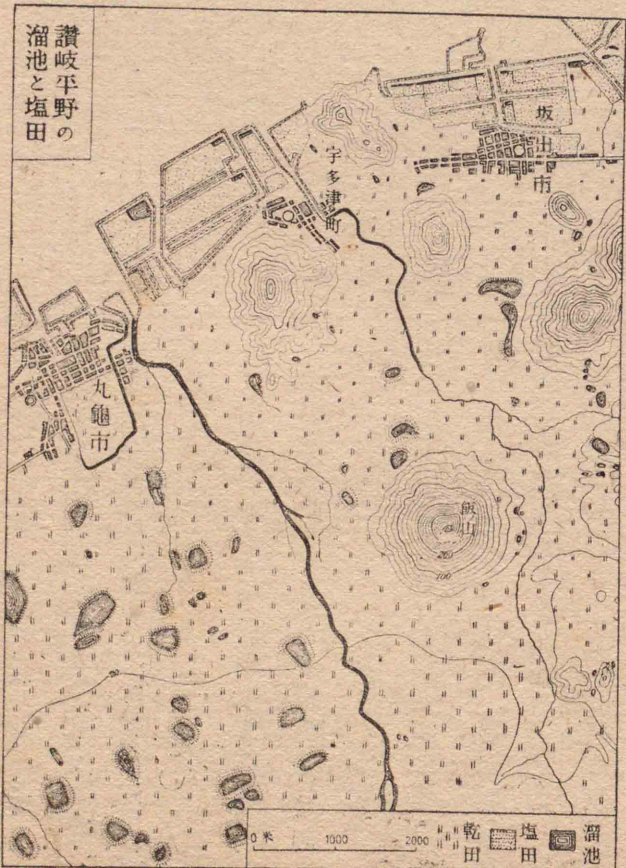
本州中央の山間盆地では降水量が少く、やゝ大陸性を帯びてゐる。瀬戸内海沿岸に塩田が發達してゐるのは、晴天の日が多いからである。日本海沿岸でも北半部は殊に雪の多い地方で、冬の間殆ど農業ができないばかりでなく、積雪や融雪期の増水に對して家や道路などを護るために、さまざまの苦心工夫を要する。谷間や山麓地方には深雪地が多い。鐵道は冬の交通を保つためにいろいろの防雪設備をしたり、除雪車を走らせたりしてゐる。

これに反して太平洋沿岸では、そ

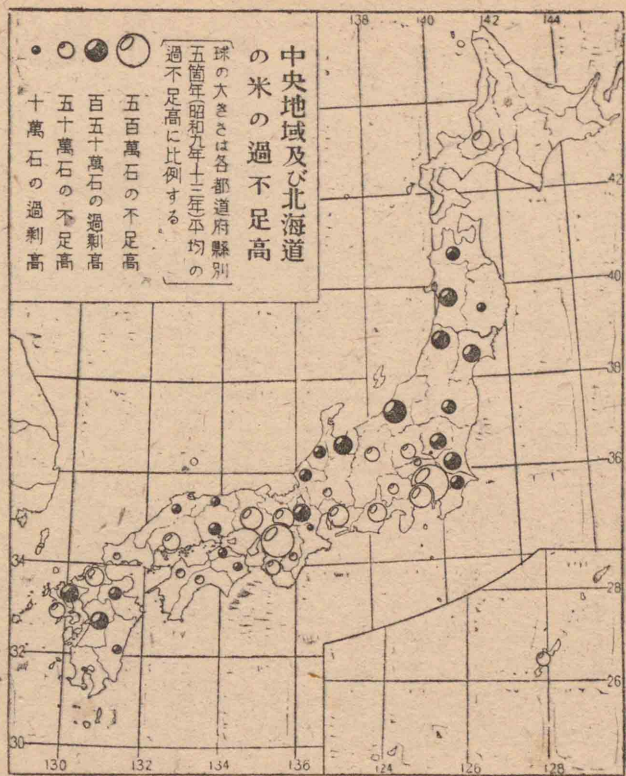
の西半部に於いて雨量が著しく夏に片寄つてゐるので、夏冬に於ける河水の差が大きく、冬は水力發電に都合が悪いため、火力發電で補はなければならない。颱風季節、殊に九月頃は雨量が多く、川は著しく増水して、屢々水害のおそれがある。

二 農業と牧畜・林業

米作は古くから各地方にあまねく行き渡つてゐるため、土地や氣候の状態に適應したさまじまの工夫が行なはれてゐる。低濕な越後平野・筑紫平野等では、排水用の溝が縦横に發達し、雨量の不足する大阪平野・讃岐平野等では、灌漑用の井戸や溜池が多い。山間の善光寺平や諏訪盆地などでは、山腹の高所まで



階段状の水田を作つてゐる。寒さの早く来る北部の諸地方では田植の時期を早めると共に、寒さに強い稲の品種を選んでゐる。雪におほはれて冬季の農業ができない地方では、一般に耕地



に對する水田の割合が大きく、夏の米作に全力を擧げてゐる。低平な水田が不足する代りに畠が廣く、且つ、夏の雨量の多い地方では陸稻も作られる。中央地域全體として米が不足してゐることは前にも述べた通りであるが、特に工業地帯を含む人口稠密の地方では、著しく不足するので、他の地方から盛んに移入してゐる。

大麥及び小麥は、冬から春にかけての氣候に適する畠の主作物であると共に、水田の裏作としても重要である。米作の終つた後の勞力や耕地を利用するので、人口の多

い中央地域では、積雪地を除き、到る所で栽培される。米の一段歩當り收量二石一斗に對して、麥類は一石四斗であつて、これは、小麥を主作物とするヨーロッパの農業國にも劣らない成績である。

粟・稗・黍・玉蜀黍・そば・大豆等も、食糧作物として米・麥の不足を補ふものであるが、一般に産額が少く、段當り收量もずつと少い。甘藷・馬鈴薯は、玉蜀黍と共にわが國では比較的新しい作物であるが、栽培が容易であるから、よく各地に普及し、重要な食糧作物となつてゐる。これらの作物は氣候に對する抵抗力が強く、元來、凶作に備へるものとして作られたが、餘り肥沃でない土地にも適するところから、現在では大いに食糧の増産に役立つてゐる。

野菜類は大部分、畠の夏作として、又、一部は冬作として、各地に作られるが、主な消費地である大都市の附近に、その栽培が特に盛んである。

果實は古くから各地それらのものを産したが、蜜柑のほかは大抵産額が少く、僅かに土地の需要を満たすか、或は一地方の名産である程度に過ぎなかつた。園藝が進歩し、品種の改良が盛んに行なはれ、交通の便が開けるに及んで、果樹の栽培は急に發達した。一般に傾斜地や砂質の土地に適するので、米・麥等の主要作物に適しない所を利用して栽培されることが多い。

蜜柑を始め、梨・桃・葡萄・枇杷・林檎・櫻桃・梅・栗・柿等、種類は甚だ多く、中には柿のやうなわが國の特産物ともいへるものもある。

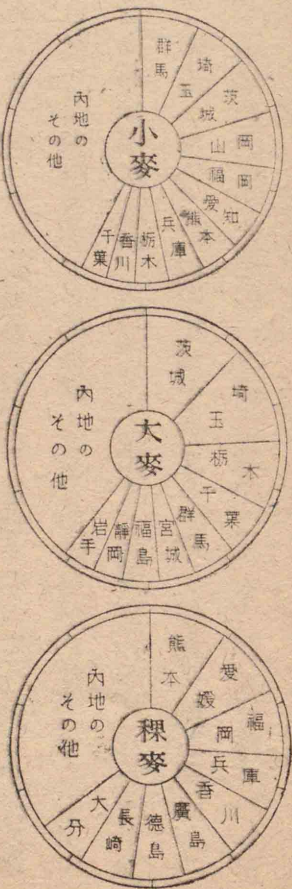
綿は古くは各地で自給し、輸出した時代もあつたが、安價な綿を輸入して紡織工業が興るやうになつてからその栽培が激減し、殆ど産出がなくなつた。

生絲は重要な國産纖維として、世界産額の過半を占めてゐる。養蠶は絹の地方的自給時代から、生絲・絹織物の輸出時代にはいると俄かに盛大となり、桑畠も著しく増大し、農家の生活にとつて重要なものとなつた。地方によつては氣候・地味等の關係から、専ら養蠶に頼る所も少くない。しかし、輸出品としての生絲は、價格の變動が甚だしく、養蠶に頼る農村を不安にしたことがある。生絲の輸出が殆ど止つて、同時に食糧の増産が急務となつた現在では、養蠶地として特に發達した地方のほかは、桑畠は麥畠などに轉換されて行く情勢となつた。

關東平野は利根川沿岸の低地や、臺地の中に深く入り込んだ谷に水田が開けて米の産も多いが、廣い臺地に畠作の發達してゐることが大きな特色である。臺地の開拓は江戸期以來大いに進み、その主作物である大麥は、中央地域の過半を産出するほか、小麥・大豆・甘藷・陸稻等の産も多い。北部は茶の栽培の略々北限に當り、南部の相模灣岸や房總半島は、蜜柑や枇杷の

北限に當つてゐる。消費の多

小麥・大麥・稈麥の生産高の割合(昭和十六年度)



い東京を圍む地域には、野菜類の栽培が特に盛んで、又、養鶏や養豚なども發達してゐる。西部から北西部にかけての山麓地帯には、養蠶が盛んで桑畠が廣く分布する。北部の栃木・鹿沼附近で作られる大麻の産額は、中央地域の過半を占め、又、茂木・烏山附近は煙草の産地として知られてゐる。

東海地方は溫暖な氣候に恵まれ、多種の作物が見られる。東半は肥沃な低地には乏しいが、東海道本線が開通した頃から臺地や傾斜地の開拓が急速に進み、砂地を利用する果樹の栽培も行なはれてゐる。静岡縣の茶は中央地域の過半を産出し、従來は、海外へ盛んに輸出された。蜜柑・梨その他の果實や野菜類も、關東・關西の兩市場へ盛んに送られる。西半の濃尾平野及び伊勢平野は低平で水田がよく開け、米の主産地である。大麥はこのあたりを境として、東方では生育力が強くて收穫の多い普通大麥が主であり、西方では成熟が早くて搗き減りの少い稈

麥を多く産する。名古屋の近郊では、野菜類が多く作られ、又、岡崎附近は農業の多角的經營が發達してゐて、豚や鶏の飼育も頗る盛んである。

關西の平野や盆地は農業の歴史が古く、耕地は早くからよく整へられ、灌漑用の溜池や水路などの設備が行き届いてゐる。随つて、農家一戸當りの耕地面積は狭いが、近江盆地・奈良盆地・大阪平野等は、いづれも米の一段歩當り收量が他の地方を遙かに凌いでゐる。稈麥・小麥を始め、大都市へ供給する野菜類も多く作られ、耕地の集約的利用が進んでゐる。京都盆地の茶は古くから宇治茶として名聲があり、大阪平野南東部の山麓地方は甲府盆地と並び稱せられる葡萄の産地である。又、有田川の下流を中心とする地方は昔から蜜柑の産地として名高く、往時、盛んに船で江戸へ積み出された。紀の國蜜柑船の名がよく當時の盛況を物語つてゐる。

瀬戸内海沿岸地方は雨量が少ないので、關西と同じく溜池による水田灌漑が普及してゐる。内海の島々は平地に乏しいので傾斜地の利用が進み、小高い山の頂まで段々畠の開かれた所も多い。水田の裏作や畠作には稈麥・小麥が多い。氣候が果樹に適するので、蜜柑・桃・梨等、その種類も少くない。藪はこの地方の特産物で、海に近い水田に栽培される。刈入れ時である夏に乾燥した天候の續くこの地方には適した作物で、岡山から廣島に至る平野が主産地であり、

備後藪の名がある。これと別種の七島藪が、大分縣の國東半島に多く産し、豊後藪として知られてゐる。これらは主に農家の副業として疊表や花筵の製造に用ひられる。

紀伊半島や南四國は平地に乏しく、米や麥の産額は少ないが、この地方での主要農耕地である高知平野は温暖で雨が多いので、一部では米の二期作が可能であり、野菜類の促成栽培も行なはれる。この地の氣候は和紙の原料となる三椶や楮にも好適で、平野周邊の山麓地方に特に多い。昔は他の地方にも廣く作られたが、パルプを原料とする洋紙の普及につれてその栽培が減少し、今ではこの地方がわが國の過半を出してゐる。

北九州では、筑紫平野や熊本平野が盛んな農耕地で、主作物の米は他地方へ多量に移出される。この兩平野には、小麥・稈麥・甘藷等の食糧作物と共に菜種の産も多い。

南九州には低地が少ないので、水田よりも畠作が發達し、殊に甘藷の栽培が廣く行なはれ、鹿児島縣は沖繩縣と共にわが國の主産地である。又、稈麥・粟・大豆・陸稻・そば等も多い。國分附近は煙草の産地として知られてゐる。

薩南諸島・琉球列島は平地に乏しく、米が少い代りに甘藷が主作物となつてゐる。これらの島々は位置からもわかるやうに、臺灣と似た點も多く、風をよけて甘蔗を作り、又、農家は總

べて豚を飼育し、その頭数は内地第一である。

山陰地方には山地が多く、平野が狭いが、宍道湖附近や米子・鳥取附近の平野はよく開けて、この地方の主な米作地となつてゐる。又、養蠶も行なはれる。

北陸地方には越後平野を始め低湿な平野が発達し、耕地が廣い。しかも、その七割以上が水田で、米作に主力が注がれてゐるので米の産額が頗る多く、中央地域の米の供給地として重要である。しかし、低湿で排水が悪い上に、積雪が深いので、一般に水田の裏作は行なはれない。新潟附近では砂丘を利用して梨が栽培されてゐる。

中央の高地は盆地や谷底の狭い平地を水田とし、更に周囲の斜面に階段状の田を作つて米作に努めてゐる。しかし、一般に桑畠以外には利用し難い所が多いため、いきほひ養蠶が盛んとなつた。甲府盆地の葡萄と善光寺平の林檎とはよく知られてゐる。

東北地方は一般に気温は低い、平野や盆地では専ら米作に主力を注いでゐるので米の産出が多く、他地方への米の供給地として重要な地域である。しかし、古來冷害に襲はれることがあつて、多收穫よりも耐冷性の品種を主としてゐる。日本海側は比較的気温に恵まれて、北陸地方と同じく水田の割合が甚だ多い。畠の作物は大麥・馬鈴薯・粟・大豆等が普通である。北

上山脈の斜面に當る地方では、凶作にも強い稗が古くから多く作られてゐる。津輕平野の林檎や山形盆地の櫻桃など、冷涼地に適する果樹も栽培されてゐる。



馬の主産地は本州北東部と九州とである。本州北東部では、下北半島から白河盆地へ至る間の

前にも述べたやうに、わが國の農業は狭い土地を専ら人の手によつて耕作し、多量の收穫を擧げてゐるのが大きな特徴である。随つて、機械力を用ひる餘地が少ないのはいふまでもなく、畜力の利用さへも決して盛んではない。もつとも役畜としての牛・馬が古くから農耕の助けとなり、又、運搬などに役立つて來たことは見逃せないところである。一方、馬は古來軍用として特殊な用途があり、殊に軍馬を使用することの多い現在では、牧馬は國防上益々重要である。

各地の臺地や火山の裾野などに分布する。盛岡・三春・白河等の馬市は名高い。九州では雲仙・霧島等の山麓に牧馬が盛んである。又、一般に肉食が盛んになるにつれて、肉牛や乳牛の飼育も起り、牛の頭数は次第に増加し、農家の副業とは別に、緩やかな高原や火山の裾野などに、牧場の経営も發達するやうになつた。しかしなほ、歐米諸國に比べれば遙かに少い。牛は房總半島の南部や伊豆半島の北西部のほかは、主に濃尾平野以西に飼はれ、特に中國山地の諸盆地や九州の諸地方に多い。

羊の飼育は、わが國では經驗が少い上に、飼育に適する土地が狭いことや風土の関係などから、未だ發達せず、頭數も至つて少い。

耕地に乏しい山間の農村では、いきほひ養蠶や山林に力を注ぐことになる。木材を伐り出すばかりでなく、薪を集め炭を焼くなど、いはゆる山仕事の勞力はなかく、大きい。中央地域の山地は、廣く森林におほはれ、所々に松・杉・檜等の美林が見られる。津輕半島や、米代川・木曾川・紀川・熊野川・仁淀川・大淀川・球磨川等の上流地方には、廣い森林地帯があつて、流域や川口附近には製材業の發達した所が多い。各地で薪炭材として伐り出されるものも多く、地方的需要を滿たしてゐる。しかし、森林がいづれも山地にあるので、伐採や運搬には不便で

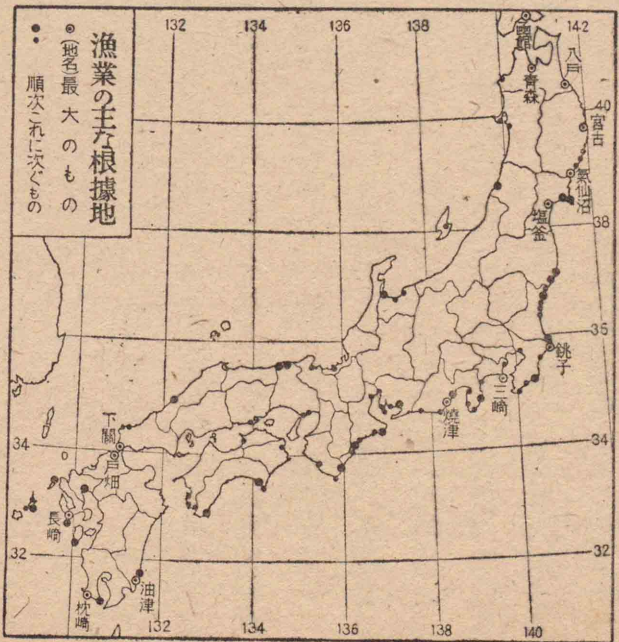
ある上に、わが國では特に治水に關係の深い保安林の必要も多いので、森林面積の廣い割合に、林業は小規模である。

三 水 産 業

中央地域の沿岸各地では古くから農業と並んで漁業が營まれ、漁村や半農半漁の村々が到る所の海岸に見られる。漁船・漁具・通信機關の進歩に伴ひ、嘗つて地方的需要を滿たす程度であつた沿岸漁業は、近海漁業へ進み、更に遠洋漁業へと發展した。鰹・鮪等の魚群を求めて小笠原群島や南洋群島を始め、遠く太平洋の沖や南洋各地へも出漁するやうになり、漁業者は數箇月を海上に送ることも珍しくない。鰹・鮪・鰯・鯖等、暖海性の魚族を伴ふ黒潮は太平洋岸を東進し、その一部は分れて日本海岸を北上し、又、鰺・鱈・鮭・鱒等、寒海性の魚族に富む親潮は、北方地域の太平洋岸を経て、本州北東部の海岸を南下するので、到る所漁族に恵まれ、殊に兩海流の出會ふ附近は最も豊富な漁場となつてゐる。沿岸漁獲物のうち、最も多いのは鰹で、食用のほか肥料や魚油などの原料となる。

三陸地方は北上山脈が海に迫る所で小灣が連なつてゐるが、後背地に乏しいので、商港とし

てよりも専ら漁港として發達した所が多く、夏季には殊に漁船の出入が多い。それより志摩半島に至る間には、川口や入江に開けた漁港が少くない。房總半島・伊豆半島等の附近は、大消費地への交通の便がよく、漁獲物の陸揚げの盛んな所が多い。相模灣・駿河灣は、富山灣と共に海が深く、魚族の洄游路が比較的沿岸に近づいてゐる。紀伊半島や四國の南岸は耕地に恵まれないので、漁業に頼る所が多く、漁業人口が農業人口を凌ぐ地方もある。黒潮に乗り出す漁船の活躍は古來有名で、捕鯨も早くから行なはれた。九州南岸もこれに似て盛んな漁業地である。琉球列島は陸地の開發が著しく限られてゐるので漁業へ力が注がれ、勇敢な島民は早くから南方の諸地方へ進出した。九州の西岸は複雑な海岸線に包まれ、附近に多くの島々が散在して漁港の發達に適してゐる上に、黒潮の支脈が



對馬海流となつて浅い近海を北上する所に當つてをり、このあたりから朝鮮近海へかけては魚族の種類も頗る豊富である。瀬戸内海もまた重要な漁場で、鯛・鯖等の魚獲が多い。

下關は朝鮮近海・東支那海・瀬戸内海等、各方面の漁場を控へたすぐれた位置にある上、交通の要地であるから、漁港として著名で、水産物の集散が盛んである。

日本海の沿岸は、砂丘にはさまれた海岸が多いが、船の出入に適する所には漁港が發達してゐる。

漁港を中心として水産加工物の製造も盛んで、鰹節・すめめ・干物・煮干・蒲鉾その他、種々のものが作られ、又、魚油を取り、肥料を製造するなど、漁獲物の利用が發達してゐることは世界にその比を見ない。

魚介類の養殖も各地に行なはれてゐる。廣島灣や松島灣のかき、濱名湖の鰻などは最もよく知られてゐるが、川や湖沼で行なはれる鮎・鱒・鯉等の養殖もよく普及してゐる。

四 鑛 業

わが國に於ける鑛業の歴史は古く、各地にある地下資源の一部は、早くから採掘・製鍊が行

なはれてゐた。金・銀・銅等がその主なもので、これらは嘗つては海外へ輸出されたこともあつた。中でも金は、上代から美術工藝や裝飾その他いろいろのものに利用され、時代を経るに従つてその用途が増加したので、採掘も盛んとなつた。寺院・堂宇等の建築物にさへ多量の金を使用した豪華さを思ふと、過去に於いてその産出が非常に多かつたことが知られる。かのマールコポーロがわが國をさして、黄金の無盡にある島國であると記したことも、決して架空の傳聞ではなかつたものと祭せられ、わが國獨得の金貨、いはゆる大判・小判が使用されたことも、金の豊富であつたことを物語つてゐる。又、鐵も刀劍や種々の鐵器類の原料として古くから用ひられてゐた。

最近、近代工業が発達し、地下資源の利用が盛んとなるに及んで、鑛業は更に著しく發展した。しかし、今日のわが國は地下資源のばくだいな量を必要とする立場に直面してゐる。隨つて、その需要を満たすために國內の各地はもとより、廣く大東亞諸地方に於ける資源の開發を促進せしめることが緊要である。

石炭は總べての工業の基ともいふべく、動力源として、又、原料として、極めて重要である。中央地域はわが國總産額の約三分の二を出してゐる。主な産地は、筑豊・三池・肥前・宇部・

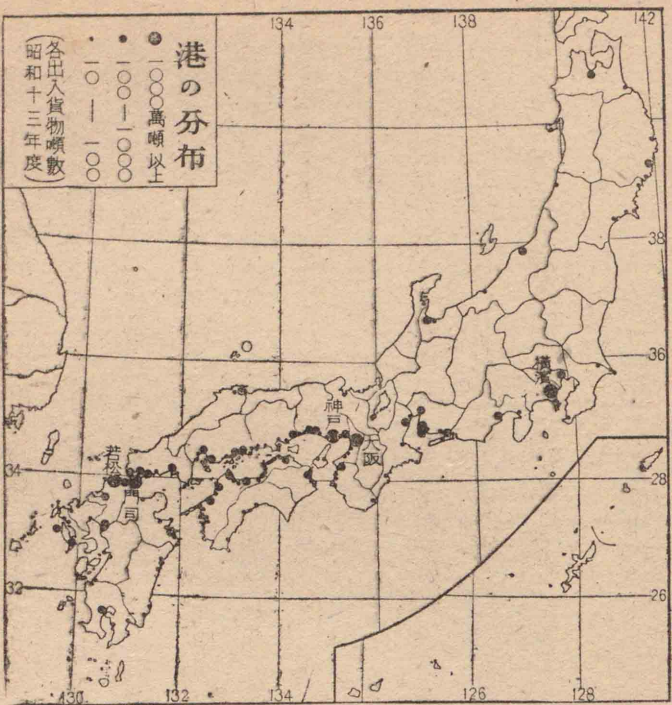
大嶺・常磐等の諸炭田である。

わが國第一の大炭田を控へた北九州は、海陸交通の便と相まつ

て、工業の發達によく適し、八幡の製鐵業を始め、機械工業や化學工業などによつて勃興した工業都市が連なつてゐる。又、若松・門司・三池・宇部等の諸港は、石炭の積出港として知られ、石炭船は瀬戸内海を通つて、阪神方面や沿岸の工業地へ頻繁に往來してゐる。

石油は秋田・新潟の兩縣に集中し、秋田縣では秋田油田が主なものであり、新潟縣では東山・西山・新津等の油田が著名である。油田地方では石油の精製も行なはれてゐる。

鐵はわが國では最も不足する資源の一つで、産地も少ないが、岩手縣の釜石・仙人の兩鑛山な



どは古くから知られてゐる。金・銀・銅・鉛・錫等は所々に分布してゐる。これらの中で、銅は小坂・日立・足尾・別子等の諸鑛山があつて割合に産出が多く、ともかくも世界的な地位を占めてゐる。需要に對してはなほ著しく不足してゐるが、一般に銅に恵まれないヨーロッパの諸國に比べれば、一つの強みともいへる。わが國は、嘗つては銅を自給してゐたが、電氣工業が進んで、その需要が増大するにつれ、安價な銅の輸入に頼り、鑛山の作業が活潑に行なはれない傾きがあつた。各鑛山では大抵近接地で製鍊を行なつてゐるが、離れた場所に適地を求めて製鍊してゐる場合もある。

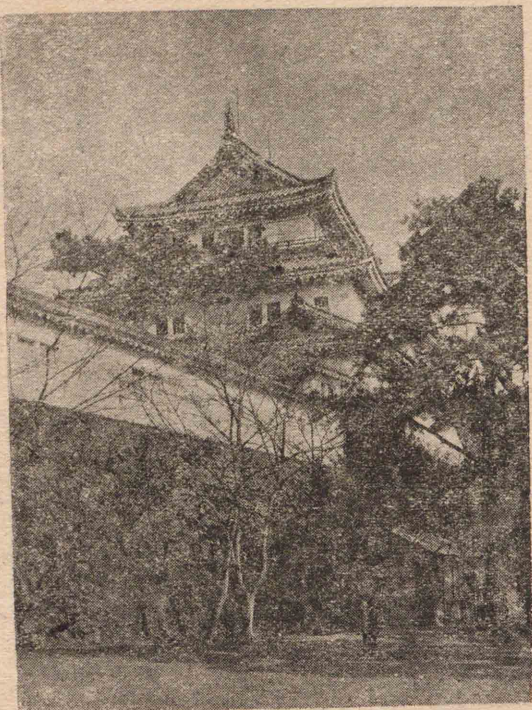
石材は各種のものがそれ／＼の地方で切り出され、セメントの原料となる石灰岩も少くない。砂利はわが國の川には到る所に求められるので、却つて注意を引かないが、土木建築の材料として極めて重要である。陶土や良質の粘土を産する地方も多く、附近の各地に陶磁器や土管・瓦・煉瓦等の製造が行なはれてゐる。

五 商工業と都市の發達

わが國ではまだ交通機關の發達しない時代に、農村の中で便利のよい場所や、城や社寺など

の所在地に、定期の市場が開かれ、それがやがていはゆる市場町となり、更に發展して都市となつたものが各地に見られる。四日市や十日町など、當時の市日(いちひ)が地名となつてその面影を殘してゐるものも少くない。これらの市場に

古城の面影



は、取引きが増加するにつれて常設の店が建ち、又、農具や日用品などを作つて賣るやうな工商を兼ねた店も出來て、商店街が作られ、地方的商業都市のかたちを具へるやうになつた。平野や盆地の中心をなす都市は、かうした道をたどつて、永い間その地方の商業地として榮えて來た所が多い。殊に政治の中心であり、商業の中心でもあつた城下町は、一般にその發展も著しかつ

た。今日、中央地域にある主な都市の大部分は、かうした城下町から發展したものである。それらの都市の中でも、産業や交通などの點ですぐれ、商業上の諸機關が整つた所は、卸賣商業

によつて多くの地方都市と密接な關係を結び、廣い地域に互る商業の大中心地として發達した。東京と大阪とは、中央地域を商業の上で略々二つに分ける大きな勢力をもつてをり、その中間に位する名古屋の商業勢力は、それに次いで大きい。その他の大都市も、それらの地方で、多くの都市を含めた廣い地域に互る商業の中樞をなしてゐる。

これらの大都市は、いづれも工業の中心地ともなつてゐる。もとく工業は家内工業から出發したもので、農村で生活必需品を自給してゐた頃には、食糧品の加工や衣料の製造は大抵耕作の餘暇を利用する農家の副業であつた。中には一部專業として營まれるものがあつたが、いづれも小規模な家内工業の域を脱しなかつた。それらの製品が農産物と共に市場で取引きされ、やがて町の商店で取り扱はれて、他の地方へ供給されるやうになると、かうした家内工業もおひおひ町を中心として行なはれるやうになつた。家内工業から工場工業へ發達して來ると、多量の原料や製品を輸送する上にも、勞働力を得る上にも、交通の便利な住民の多い町や都市は都合がよいので、規模の大きい工業は、いきほひ町や都市に集中するやうになつた。そこで次に主な工業に就いて考察してみよう。

先づ纖維工業であるが、これは明治維新以來のわが工業の力強い發展を世界に示したものの

一つである。生絲は國産纖維として獨得の重要性があり、絹織物はその歴史が古く、産地によつてそれ／＼創意に富む特産品を出し、國民のすぐれた技術と豊かな藝術的才能とをよく現してゐる。殊に京都西陣の帶地・御召みめしや友禪染ゆうぜんぜんなどは、美術工藝に對する永い傳統の生んだ特産物である。又、福井縣・石川縣の羽二重はたふたへ、伊勢崎いせざき・秩父ちちぶ・足利あしかが・八王子等の銘仙めいせん、桐生きりやの帶地御召、京都府峰山や滋賀縣長濱の縮緬ちぢみめん、新潟縣十日町の明石あかし、鹿兒島縣の大島紬おしまじゆ、福岡の博多織はかたなど、名高いものが多い。

製絲業は諏訪盆地の岡谷おかやを始め、本州中央の高地にある諸盆地の都市を中心として盛んである。工場で生産されるほか、家内工業としても營まれてゐる。

その他の地方にも製絲業は廣く分布してゐるが、前にも述べたやうに、桑畠が縮少するに従つて、製絲業の地域も狭まつて行くであらう。

従來は生絲の大部分がそのまま輸出されてゐた關係から、絹織物業地は製絲業地に比べて地域が狭く、北陸や關東平野の西部山麓が主要地域となつてゐる。この場合も製絲業と同じく、都市を中心とした大きな工場によるほか、農家の副業的家内工業によつて生産されるものが少くない。

關東平野に於ける絹織物業地は、養蠶・製絲の盛んな地方に興つたわけであるが、北陸の場合、濕氣の條件が絹織物業に適してゐるばかりでなく、農耕の時期の限られた積雪地であるから、長い農閑期を利用した農家女子の副業として發達したのである。

綿の紡織も、永い間それ／＼地元綿を使い、家内工業によつて、地方的自給自足が續けられたのであるが、安價な輸入綿を原料とする工場工業の時代にはいと、生産・技術共に向上の一途をたどり、その間、わが國獨得の優秀な織機の發明もあつて、忽ち紡織業の先進國を壓倒する發展を示した。これは、もとよりわが國民のすぐれた素質にもよるが、又、一方古くからいろ／＼の紡織を副業として、日常これに親しんで來た生活によつて養はれた、紡織に對する技術的素地を近代工業に活用した結果である。

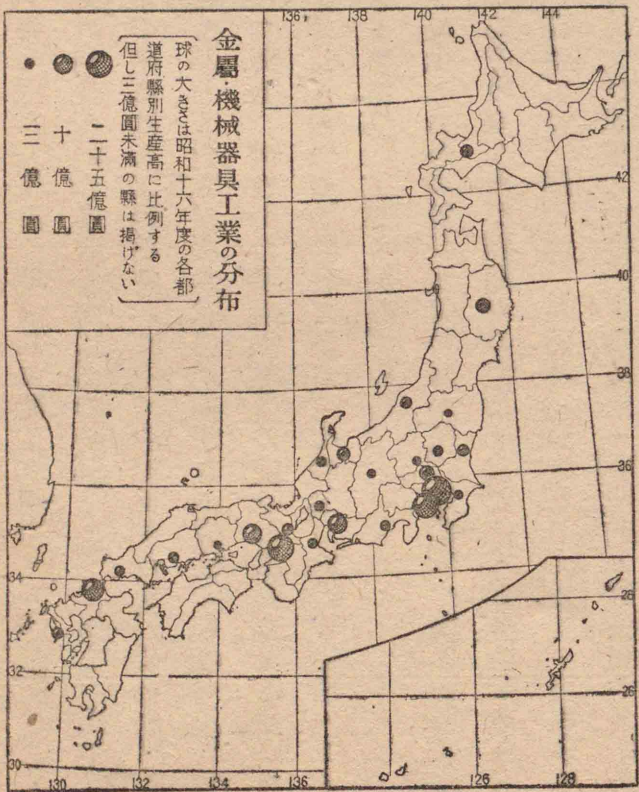
近年、人絹工業が興るに及んで、これらの絹及び綿織物業地では、一般に人絹織物、或は人絹交織物の製造が盛んとなつた。

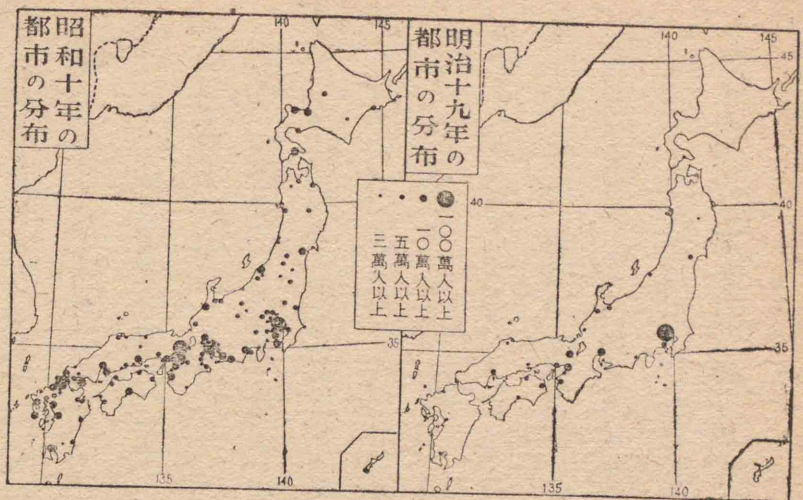
東京から東海地方・瀬戸内海地方を経て北九州に至る地方の多くの都市には、紡織工業が行なはれ、殊に大阪平野・濃尾平野・伊勢平野には、紡織工業の都市が密集するに至つた。これに混つて濃尾平野を中心とする毛織物業も興つた。これを絹・人絹織物の地方と比べてみると、

互に別な地方を占めてゐることがわかる。

綿・羊毛の輸入が杜絶した今日でも、一部の工場は、代用纖維や混紡などで操業を續けてゐるが、大部分は國家的要求に即應した他の工業へ轉換することになつた。

金屬・機械器具・兵器・鑄物・船舶・車輛等の重工業や、藥品・染料・紙・油脂・ゴム・肥料等の化學工業は、東京から北九州に至る間の諸都市に廣く行なはれてゐる。これらの都市は、原料・動力・勞働力を集める便宜があるために、輕工業の盛んな時代には、多くは綿工業地として知られてゐた所である。最近、工業の重點が重工業・化學工業に移ると、そのまゝこれらの都市がその中心となり、更に附近に新





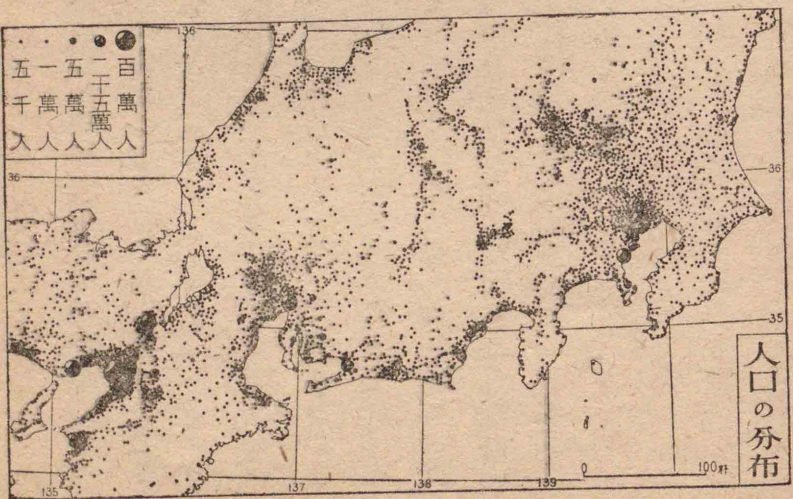
興の工業地を加へて、日に／＼活氣を呈するやうになつた。わけても京濱工業地帯・名古屋工業地帯・阪神工業地帯・北九州工業地帯はわが國工業の中樞となつてゐる。工業都市の中には大工場のほかに中・小工場もあり、又その間に部分品などを請け負ふ家内工業的な小規模のものも入り混つてゐる。かうした小規模經營の發達してゐることは、わが國工業の一つの特色である。その他、製粉・印刷・セメント製造等の工業も盛んである。

なほこれらの近代工業のほかに、陶磁器や漆器の製作にみるやうな、わが國獨得の精巧な技術を誇るものもある。陶磁器では、瀬戸焼・有田焼・清水焼・九谷焼・薩摩焼等、漆器では京塗・會津塗・輪島塗・春慶塗・若狹塗等があらはれてゐる。又、清酒・醬油の醸造のやうに、原料・水質・氣候等の條件と傳統的な技術とが結びついて、産地それぞれ

れの特産物を出すものもある。

中央地域は歴史が古く、文化が早く開けた所であるから、産業・交通・政治等の要地には到る所町や都市が興つて、それ／＼各地方の中心となつてゐる。前にも述べたやうに、今日の主な都市は、大部分が城下町から發達したものであるが、それらは城下町時代からの歴史と傳統とを引いて、おのづから都市としての一種の風格をもつてゐる。そのほか、港町・市場町・宿場町・門前町等から發達したのもあれば、織物業や製陶業など、或る種の産業の中心地として、又、鑛山や温泉などの所在地として發達した所もある。中には明治以後、鐵道の要地として、或は貿易港・軍港として開けた所もある。

これらの町や都市は、城下町であると同時に港町・宿場町であるとか、市場町であり、且つ宿場町であるといふや



うに、幾つかの性質を兼ねてゐたものが多かつたのであるが、今日の大都市では一層その性質が複雑となり、政治・経済・軍事・文化・交通・商工業等の中心となつてゐるのが普通である。更に交通の發達は、特にこれら都市の活動を活潑にし、これに伴つて人口の都市集中が著しくなつた。

中でも近代工業の急速な發展は、一段と人口の都市集中を促進し、大都市の附近には新しい工業都市も興つた。各地方に於ける交通の中心である大都市は、いづれも一面、工業都市の機能を具へ、その特に發達した所では、附近一帯の工業地を連ねて一大工業地帯が形成され、そこに著しい人口稠密地帯が出現した。しかし、この趨勢によつて、次第に都市人口に對する農村人口の割合が減少する方向をたどつて行つたことは、農村の健全な發達、ひいては食糧の國內自給の上に大きな問題として注意されるやうになつた。殊に國防を強化する上に、大都市に於ける密集人口の疎開、工場その他重要機關の分散が實施されてゐる。

第三 北方地域

一 北方の開拓

北方地域のうち、北海道は古くから知られてゐた所で、史上にこの地のことをたどると、千數百年の昔に溯ることができ、渡島、或は蝦夷ヶ島・蝦夷などの名が記されてゐるのをみても、本州との間には早くから一部の交通が行なはれてゐたことがわかる。鎌倉期になつて漸く進んで來た兩者の關係は、江戸期にはいるに及んで愈々深まつて行つた。

江戸期を通じて、松前藩は渡島半島を中心に、この地の經營に當つたのであり、その間幕府もまた統治上種々の施策を行なつてゐる。又、本州北東部方面から渡來する漁業者もおひ／＼に増加して、漁場の開拓に努めた。

幕末になると、カムチャツカや沿海州方面から南下したロシア人は、次第にその勢力を加へて千島や樺太を侵し、更に北海道に迫るに及んで、國民のこの方面に對する關心は俄かに高ま

つた。幕府はロシアに對抗して北邊の防備を嚴重にすると共に、探検・測量等にも意を注いだ。最上徳内・本多利明・近藤重藏・間宮林藏・伊能忠敬等が萬難を排して活躍したのもこの頃で、北進日本の意氣を代表したものである。

樺太に對しても、松前藩は早くから調査・探検をし、漁業の奨励、原住民との交易など、種の方面に互つて銳意その經營に努め、幕府も一時こゝを直轄地として統治に當つたこともあつた。これらの歴史的關係からすれば、當然わが國に所屬すべき地方であつたが、幕末以來、ロシアとの間に、領土の境界に關する紛争が續けられ、漸く明治八年、兩國の條約によつて千島はわが領土、樺太はロシア領と決定された。

この條約はわが國にとつて甚だ不利であつたが、國力の足らなかつた當時としては止むを得ないものがあつた。その後、北海道・千島の開發と防備とに力を盡くすと共に國力の充實に努め、遂に日露戰役の結果、樺太の南半を領有することとなつた。

明治維新以來、官民の努力によつて、北方地域の開發は目ざましく進展した。北海道の進展はいふまでもなく、樺太もロシア領であつた三十年間は、殆ど未開發のまゝにおかれてゐたが、わが領有以來急激な發展を續けて、全く面目を一新した。

明治二年から同十五年まで、北海道に開拓使が設置されてゐたことは、この地の開發上注目すべきことで、開拓使は開墾や居住・交通その他、諸般の經營に當り、その治績は大いに擧つた。未開墾の奥地や警備上の要地には屯田兵を置いて、農事と兵事とを兼ね行なはしめ、又、中央地域の農業者に種々の援助を與へて移住せしめるなど、種々の施策が行なはれると同時に、一方、自發的にこの地方へ移住するものも年々増加した。これらの人々は、寒冷な氣候や不便な交通のもとで困難な生活と闘つて、無人の林野に開拓の鋤を振るつた。さうして、廣い耕地を利用する新しい耕作法をたて、この土地に適する作物を選定・栽培することに成功して、今日、北海道にみるやうな盛大な農業の基礎を築いた。

かうして、早くから營まれた漁業のほかは農業が發達し、更に林業や工業も勃興したのであるが、北方地域に於ける漁業と林業との地位は、他の諸地域の場合に比べて遙かに重要である。廣大な原野は牧場として利用されてゐるが、牧畜はなほ發展の餘地が多く、又、地下資源の將來は甚だ有望である。工業は農・林・水産物の加工が主で、まだ他の方面は餘り進んでゐない。しかし、近年豊富な石炭を利用して、室蘭を始め主な都市に近代工業が興つて來た。

居住者の大部分は明治維新以後の移住者で、開發が進むにつれてその數も増加し、今や北海

道は約三百三十萬、樺太は約四十萬に達してゐる。しかし、人口密度はわが國諸地域中最も低く、勞力の不足が常に問題となつてゐる。原住民はアイヌ人が約一萬八千人、ほかにオロッコ人などが住んでゐる。アイヌ人は遠い昔には、本州にも廣く分布してゐたことが、その遺物・遺跡の發掘によつて知られてゐる。

樺太はロシア領と境を接してをり、千島列島はカムチャツカ半島の南端へ延びてゐると共に、アリューシャン列島を経て米國領アラスカへの最短距離に當つてゐる。隨つて、松前藩の昔に北邊の護りであつた北方地域は、今日、國防的重要性に於いて更に幾倍の重きを加へたばかりでなく、又、わが北方發展の一大基地たる役目をもつてゐる。現在ではこの北方地域の總べてが内地に加へられてゐる。

二 自然環境

本州北東部の中央を縦に貫ぬく奥羽山脈と、それに伴ふ那須火山帶とは、津輕海峽を越えて渡島半島に續いてゐる。この半島部と北海道の胴體部とを結びつける位置に、石狩平野が横たはり、その東を限つて蝦夷山脈と總稱される大きな山地帶が、胴體部の中央を南北に縱走し

てゐる。蝦夷山脈には、南部に高く峻しい日高・夕張の兩山脈があり、それに續いて北部に低く緩やかな北見・天塩の兩山脈があつて、三列の山脈を作り、その間に上川盆地や富良野盆地などを挟んでゐる。この大山地帶は、樺太に渡つてなだらかな樺太山脈及びこれに平行する鈴谷山脈・東北山脈となり、それらの間にそれと平野を作つてゐる。又、蝦夷山脈の中央から東へ延びた千島火山帶は、數多の火山島を起し、列島となつて、遠くカムチャツカ半島に及んでゐる。

蝦夷山脈は、石狩平野から奥地へ進む開拓の行手を遮る大きな障害となつたが、鐵道が次第に開け、やがて峠を越えて東へ進むやうになると、東部の諸平野は活潑に開拓されて行つた。

北方地域の産業や文化を特色づけるものとして、先づその冷涼な氣候を挙げなければならぬ。緯度は略々フランスなどと同じであるが、それに比して冬の氣溫が著しく低い。日本海沿岸は暖流が北上するので、氣溫はやゝ和げられて不凍港を見るほどであるが、太平洋沿岸とオホーツク海沿岸とは共に寒流が南下するので寒さが強く、オホーツク海の沿岸は凍結し、春には流水が押し寄せる。寒流と暖流とが相會するあたりは魚族が豊富であるが、夏、屢々濃霧が發生し、航海を妨げると共に、農耕をも妨げる。日本海方面に、冬、雨雪が多いのは、中央地

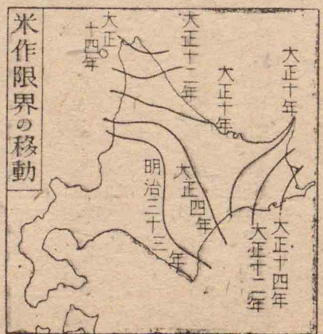
域の場合と同じであるが、その量は中央地域よりも遙かに少い。積雪は深くない代りに、激しい吹雪に襲はれることが少くない。かうした氣候の影響によつて、北方地域の農業は、作物に就いても、耕作に就いても、中央地域のそれとは甚だしく相違してゐる。

三 農業の發達

農業の歴史の新しい北方地域は、可耕地に對する耕地の割合が小さく、北海道では可耕地の約二分の一、樺太では約五分の一が耕作されてゐるに過ぎない。北海道では耕地の約二割が水田、他の大部分は畠となつてゐて、畠作を主とするところに特色がある。作物も寒氣に強いものを主としてゐる。主な農耕地は石狩平野・上川盆地・十勝平野等で、廣い耕地を大規模に耕作して、燕麥・小麥・馬鈴薯・大豆等を作つてゐるが、殊に燕麥の産が多い。そのほか亞麻・除蟲菊・甜菜・薄荷等の作物もあつて、これらはこの地の農産の特色をよく現してゐる。渡島半島には余市附近を主として林檎が栽培され、津輕平野に次いで産出が多い。

永い間の苦心と經驗とによつて發達した中央地域の農業を、この地の氣候と土地とにふさはしいものにするために、開拓者は多大の努力を拂つて來た。その最もよい例は米作である。米

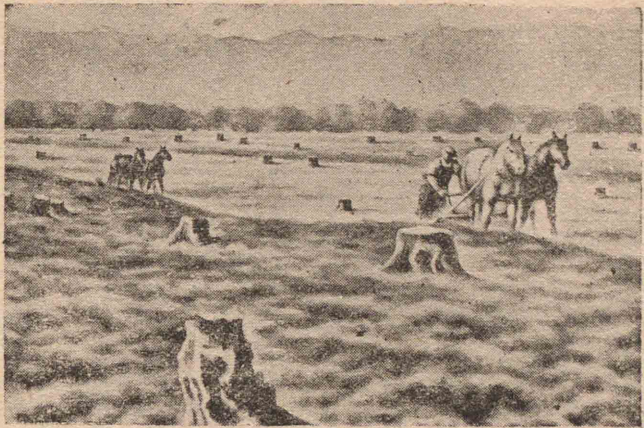
作に對する熱意はわが國農業者の傳統的的精神であるから、試作は早くから屢々行なはれたが、いづれも失敗した。しかし、その後非常な苦心研究の結果、遂にその目的を達し、渡島半島の南部から出發した米作は、地方ごとに品種の改良を行なひながら、次第に氣候條件の悪い北部や東部にまで押し進められ、現在では北海道の殆ど全島に行なはれるやうになつた。主な米作地は、西半部殊に石狩平野や上川盆地などであつて、本島だけで略々自給できる産額に達してゐる。樺太や千島では、現在なほ米作は行なはれないが、今後の努力によつては必ずしも不可能ではなからう。



中歐や北米の農業をこの地に適するやうに改良した努力も大きい。冷涼地の常として、冬が長くて耕作の期間が短く、日照も少いので、肥料も容易に分解せず、一般に土地の生産力が低い。その上、僅かの天候の異常からも凶作となることが多いので、適應作物の選定、品種の改良、耕作期間の調整など、いろいろの方面に努力が續けられ、その結果、北方地域の農業は科學的にも著しく進歩したものとつた。又、農業機械を用ひたり、牛・馬を使役したりして、勞働力の不足を補つて、一戸當りの耕地面積を大きくした。隨つて、人口の増加した現在でも、農家一戸當りの耕

地面積は約五町歩で、中央地域の約五倍に當つてゐる。

十勝の農場



このやうに、少い勞働力で廣い耕地を耕す上に、夏作を主とする關係から、作物は自然或る一種類だけのものを廣く作る場合が多いので、それらの適地作物を見渡す限りの廣い畠で作つてゐる。その點でも、一年中畠をあけることなく、しかも細かく區切つて、同時にいろ／＼なものを作つてゐる中央地域の農業とは著しい相違を示してゐる。

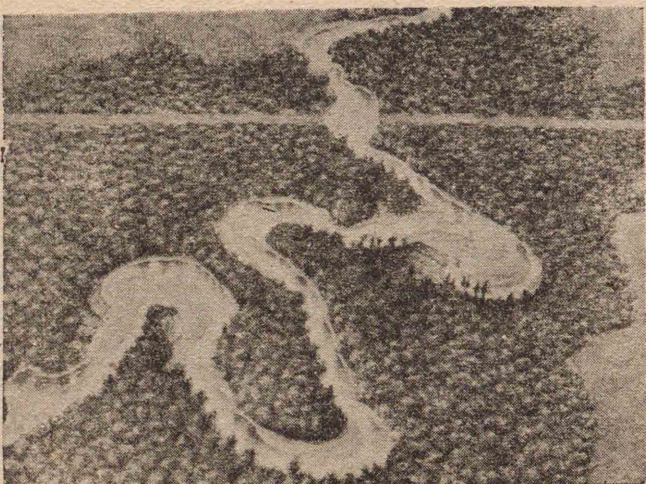
北方地域は、わが國にとつて、冷涼地の農業に對する試験場ともなつた。幾多の困難を通して得たこの貴い體驗は、滿洲や北支那の開拓に大きな貢獻をしてゐる。

北方地域は、集約農業の高度に進んだ中央地域に比べて、遙かに土地に餘裕があるので、牧畜に適してゐる。燕麥のやうな飼料作物が盛んに作られてゐるのもそのためである。廣い原野と豊かな牧草と、畜力の必要なことが相まつて、牧畜を發達させてゐる。石狩平野には乳牛

の飼育が盛んで、酪製品の産額はわが國第一である。又、この平野には羊も多い。釧路や根室附近の平野などでは、耕種よりも家畜の飼養が主となつてゐて牧馬が盛んである。

北方の森林地

林業の盛んなことは、この地域が他の三地域と著しく異なつてゐる點である。林野の開拓が進んだ今日でも、なほ山地や平地に森林が廣く分布し、林業はこの地域の重要な産業となつてゐる。殊に農耕地のごく少い樺太では、森林は第一の資源である。主に冷帯性の針葉樹林で、えぞ松・とど松が多く、木材として移出されるものも多いが、パルプの原料に好適なため、パルプ工業や製紙工業が各地に興つてゐる。殊に樺太では唯一つの近代工業で、主な町は殆ど皆製紙・パルプの工業地となつてゐる。



わが國は國土の五割以上が森林であるが、北方地域のほかは、運搬に不便な山地であるため

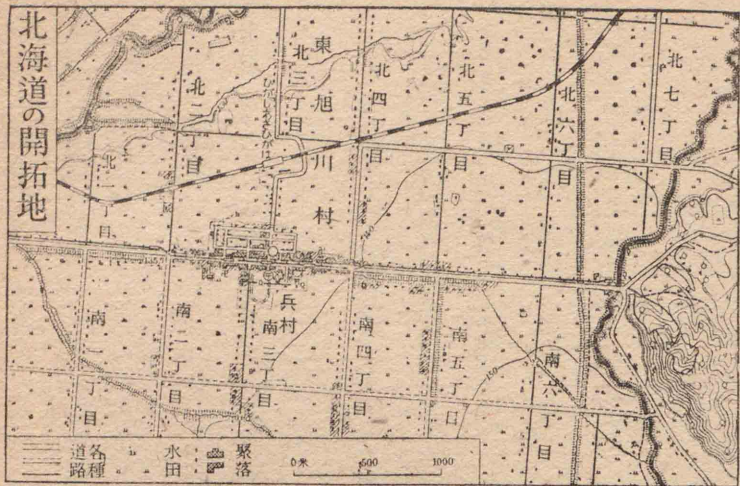
伐採高は少い。随つて、従来は建築材やパルプ原料を多量に北米から輸入してゐた。現在これらの輸入が絶えたので、北方地域の林業の地位は益々重要となつた。

森林の伐採は冬季に行なはれ、積雪の上を山地から平地へおろし、更に鐵道の便や川を利用して工場へ送られる。森林の伐採に伴なつて、一方では絶えず植林も行なはれてゐるが、平地は耕地に變つて行くことが多いので、林業地は次第に交通の不便な開拓の進まない北の方へ移つて行く。

漁業は北方地域の開發を促した最初からの産業であるが、近海に世界的大漁場を控へてゐるので、今なほ極めて盛大である。漁獲物は鯨・鮭・鱒・鱈等、寒海性の魚類が主で、中央地域の黒潮に沿ふ地方に多い暖海性の魚類とよい對照を示してゐる。又、たらば蟹や昆布も多く取れる。松前藩の昔から本州の漁業者がこの地方へ盛んに出かけたのは、いかに漁獲物が多く、利益が大きかつたかを物語るものである。

さうして漁期にだけ出漁してゐた者も、次第に港を築き、村落を作つて定住するやうになつた。函館や小樽などの主要港も、かうした漁港から發達したもので、北方地域の諸港は總べて現在も漁港としての機能をもつてゐる。今なほ漁期には、年々本州北東部方面から多く出稼ぎ

に渡來する。



第三 北方地域

北方地域がわが北洋漁業の基地であることはいふまでもない。函館はその主要な根據地で、又、漁獲物の大集散地であり、罐詰その他の水産加工業も盛んである。根室も千島方面の漁場を控へた根據地となつてゐる。

鑛業は石炭を主とし、所々で採掘されてゐるが、石狩炭田が最も名高い。しかもなほ未開發の所が多い。樺太山脈の兩斜面にも廣く炭田が分布し、近年その産額が急増してゐる。開發の進んだ中央地域の炭田に比べて、北方地域の炭田は將來有望である。移出される石炭は、主に海路によつて中央地域の諸港に運ばれる。石炭のほかには、金・銀・鐵・マンガン・硫黄等が擧げられる。

工業はパルプ・洋紙を始め、酪製品・小麥粉・甜菜糖・澱粉・亞麻製品・水産製造物等、いづれも北方地域内に生

産される原料を主とするところに特色があり、その點、中央地域の工業とは大きな違ひがある。中には室蘭のやうに、豊富な炭田を背景として鐵工業が興り、重工業への發展を示してゐる所もある。

交通も産業の開發と互に結び合つて開けて行つた。先づ漁業の發達に伴なつて沿岸の航路が開け、次いで内部の開拓につれて鐵道が延び、鐵道は更に沿線の産業や町の發達を促したのである。

開拓の新しい土地であるから、古い村や都市の稀なことは、中央地域と著しい相違である。主な都市は漁港から發達した港や、開拓地の中心地として建設されたものなどである。都市は大抵始めから計畫的に設計され、碁盤目形の整然たる街路のものが多し。農村も地割を定めて開拓した所は、道路と耕地と農家とが規則正しく配置されてゐる。かうした聚落景觀も、他の諸地域に見られない一つの特色である。

第四 西方地域

一 本土との關係

日本列島で大陸に最も接近してゐる所は、樺太と臺灣とである。しかし、この兩地は、わが本土と大陸とを連絡する根據地としては、北と南に片寄り過ぎてゐる。然るに西方地域の主體をなす朝鮮は、大陸から本土の中央に向かつて長く突き出てゐるので、滿洲・北支那方面との連絡上、極めて好都合である。又、關東州も滿洲への一つの入口に當つてゐる。かうした位置からだけでも、西方地域が本土と大陸とに對して、どのやうな役目をしてゐるかは、おのづからうなづけるであらう。

古くは大陸の文物が、こゝを通つて傳へられたが、本土と大陸との關係が日に／＼密接となつて行く今日では、わが國力の大陸へ延び行く足場として、その役割は愈々重要となつてゐる。このことは交通の上に最もよく反映してゐる。

朝鮮の幹線鐵道は、南では關釜連絡船によつて中央地域の鐵道と接續し、北では安東で滿洲の鐵道と連絡してゐる。なほ北鮮の不凍港、雄基・羅津・清津の諸港から、新潟や敦賀へ通ずる航路は、わが本土と滿洲との一つの連絡路を形づくつてゐる。

大連は南滿洲鐵道の起點に當り、又、一方、航路によつて門司・長崎等と結ばれ、關東州並びに滿洲の門戸をなしてゐる。

このやうな位置を占める西方地域が、古くからわが國と密接な關係があつたことは、寧ろ當然であり、嘗つて半島にあつた任那・新羅・百濟・高句麗等の國々と、わが國との歴史的交渉は、よくこれを物語つてゐる。随つて、半島の安危如何は、直ちにわが國に影響を及すのである。今までわが國が半島の安定のために拂つた努力は大きかつた。近くは日清・日露の兩役に就いてみても、わが國が支那やロシアの勢力に對してこの地域を護り、東亞永遠の平和を保持するために戰つたことに大きな意義があつた。かうした深い因縁によつて結ばれて來たわが國と西方地域とが、一體となつて進むことは、東亞安定のため、又、文化發展の上に眞に必要とするところであつた。かくて關東州は日露戰役の結果、わが國が治めることになり、朝鮮は明治四十三年、わが國に併合せられ、以來、共に著しい發展を續けて來た。さうして、滿洲事變

や支那事變に際しては、大陸へのわが前進基地・兵站基地としての役割をよく果して來たのである。

もと／＼西方地域は、北方地域とは違つて、早くから大陸の影響を受けて、古い歴史と文化とをもち、人口も多い所であつたが、併合後の發展はまことに目ざましいものがある。例へば、現在の朝鮮の人口約二千四百萬は、併合當時に比べれば二倍に近く、産業の方面に就いても、その生産額は約五倍に増加してゐる。このやうな短日月に於ける進歩發展は、内地人の指導と資本と技術などによつて、あらゆる方面を一新した結果にほかならないが、一面それは、内鮮一體となつての努力の賜物でもあつたのである。

しかし、北方地域の開發のやうに未開拓地に對する場合とは異なり、永い傳統と習慣とをもつ所であるから、その統治・善導に對する官民の努力は、まことに並み／＼ならぬものがあつた。朝鮮の場合に就いていへば、最初の十年間には、先づ道路・鐵道・港灣等を整備し、土地を調査してその所有を明らかにするなど、將來の發展の土臺となるさまざまの準備が整へられた。次の十年餘りは、農業時代ともいふべく、大いに米作の改良進歩を圖り、中央地域へ多量の米を移出するやうにした。最近の十年間には、農業の發展と並んで、鑛工業を勃興させ、こ

の方面に於ける成果にもまた大いに見るべきものがある。一方、纖維製品・雜貨等の生活必需品は、今日に至るまで主として中央地域から供給を仰いでゐる。このやうに内鮮の關係は愈々密に、着々として一體化の實が擧げられてゐる。

二 自然環境

朝鮮の山地は、全體からみて、特に東側に片寄つてゐる。北部は長白山脈や蓋馬高臺などのある高地で、二千米以上の高峰も少くないが、一般に高原状をなし、次第に西に傾いてゐる。中・南部では日本海岸に沿つて、餘り高くない太白山脈が走り、その支脈は小白・車嶺等の低い山脈となつて南西に向かひ、黄海に没してゐる。随つて、東側は、海岸に山が迫つて斷崖をなす所が多く、平地も狭く、海岸線は出入に乏しい。これに反して、西側は、山地が徐々に平地へ移り行く所で、そこには廣い平野が所々に開け、互に低い峠によつて結ばれてゐる。黄海沿岸から、朝鮮海峽沿岸にかけては海岸の出入が甚だしく、且つ、無数の島々が散在してゐる。川も地勢の關係から東側のは短くて急であるが、西側には長大なものがあつて、平野を緩やかに流れてゐる。大同江・漢江等は舟航にも便利である。随つて、主な農業地は皆西側に

あり、交通も西側によく發達してゐる。

西方地域は、大陸と同じく一般に火山が少ない。主な火山として、朝鮮の最高峰白頭山があらはれてゐるほかは、濟州島や鬱陵島などの火山島があるくらゐで、温泉も稀である。

關東州は、殆ど全體が低い丘陵地で、緩やかに起伏してゐる。海岸線は出入が多く、各地に、灣がある。

朝鮮は、緯度からみれば、北は北海道の南半から、南は略々東海地方や瀬戸内海に當るあたりまで延びてゐる。しかし、その氣候にはおのづから特色があつて、位置からも察せられるやうに、大體中央地域と大陸との中間の性質をもつてゐる。即ち、冬の氣温は、中央地域の同緯度の所よりも遙かに低い。例へば、南鮮では新潟や仙臺と、北鮮では樺太の南部と同じであるといふやうに、やゝ高い緯度の所と同じ氣温を示してゐる。北鮮では川も凍つて車馬が通れるやうになる。濫突のやうな特殊な煖房装置が行なはれるのも、かうした冬の寒さを物語つてゐる。又、北鮮では、滿洲のやうに、いはゆる三寒四温の規則正しい氣象の變化がある。これに反して夏は、北鮮でも本州北東部と同じくらゐに氣温が昇る。とのやうに、冬と夏との氣温の差が割合大きい。降水量も、中央地域よりも全般的に少く、中でも北鮮はわが國で最も雨量の

少い所である。殊に冬、ごく少いことは満洲や北支那と似てゐる。雨は大部分夏に降り、その時期には屢々洪水が起るほどである。關東州では更に大陸的な氣候の特色を現し、夏の雨さへ朝鮮より一層少い。

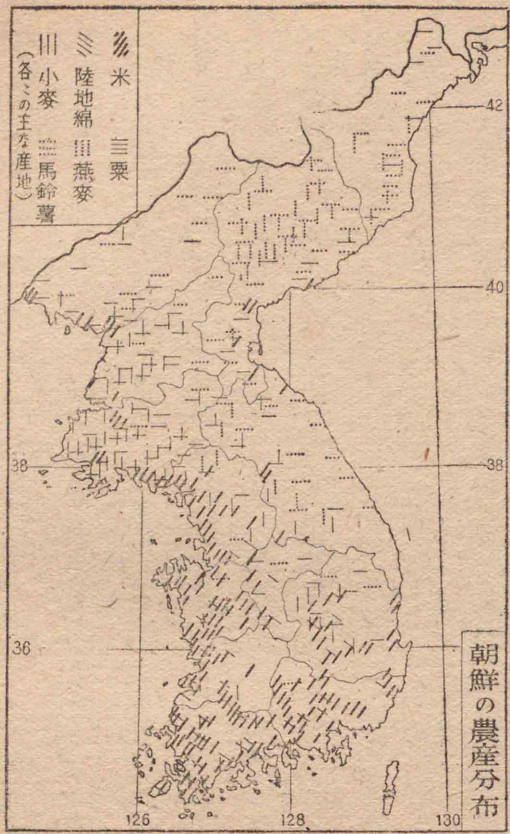
三 産業その他

夏暑くて雨の多いことは作物の生育に都合がよく、農業は古くから盛んで、西方地域の主な産業となつてゐる。

朝鮮の耕地は全土の二割を超え、農業者は人口の七割以上に當り、耕地及び農業者の割合が、中央地域のそれよりも大きい。又、農家一戸當りの耕地面積は、中央地域の一倍半もあるが、一段歩當り收穫高は半分にも及ばず、まだ向上の餘地が多い。もとは灌漑施設などは殆どなく、水田も概ね天水に頼る有様であつた。且つ山林の濫伐のために、旱害や洪水などの災害が多かつたが、併合以來、灌漑施設や山林・河川の保護など、種々の改善が行なはれてゐる。

南部には水田が多く、北に行くに従つて次第に畠が多くなり、北鮮では大部分が畠となる。これは雨量が南から北へと減少することも一因となつてゐる。随つて、米作は南鮮に最も盛んである。

である。そのほか、南鮮では大麥・陸地綿・麻・煙草等の栽培が盛んで、養蠶も行なはれるなど、中央地域と似通つてをり、朝鮮に於ける農業の中心地となつてゐる。人口も最も稠密であり、都市も多い。



朝鮮の農産分布

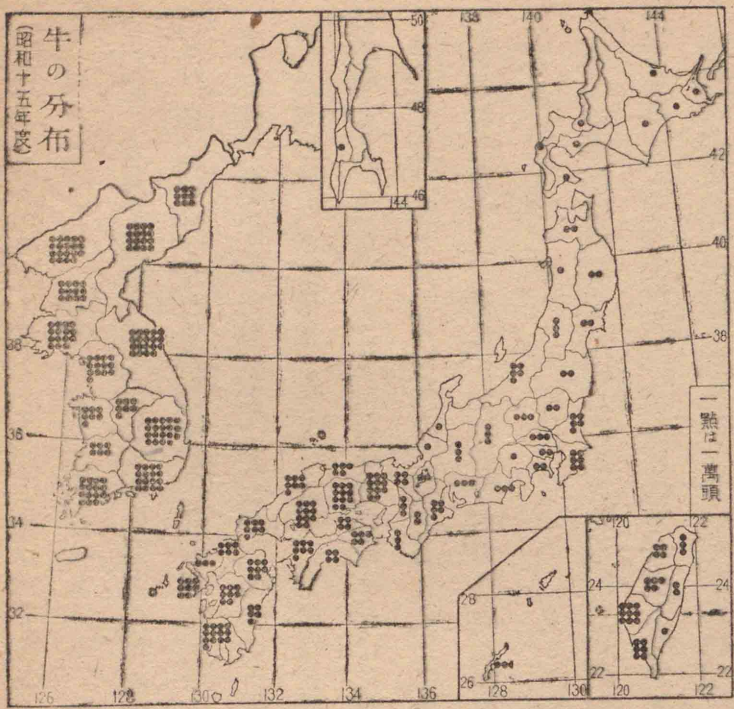
北鮮では、耕地の八割が畠である。こゝでは北方地域と同じやうに、燕麥・馬鈴薯・大豆等が多く、その他、粟・稗・そば・玉蜀黍等の雜穀が作られる。半島に於ける林檎の栽培も、北鮮が中心である。この地方の山地には、森林を焼き拂つては畠として使用し、地力が衰へると更に新しい土地を求めて移動する火田民がゐる。近年、この風は次第に改められ、定住するものが多くなつた。

半島の中部は、米作地と雜穀産地との混り合ふ地方で、田は海寄りの方に、畠は山寄りに多

い。しかし、全體としては田よりも島が遙かに多いので、主な作物は小麦・大麦及び雑穀である。そのほか、特産物の朝鮮人蔘もこの地方に多い。

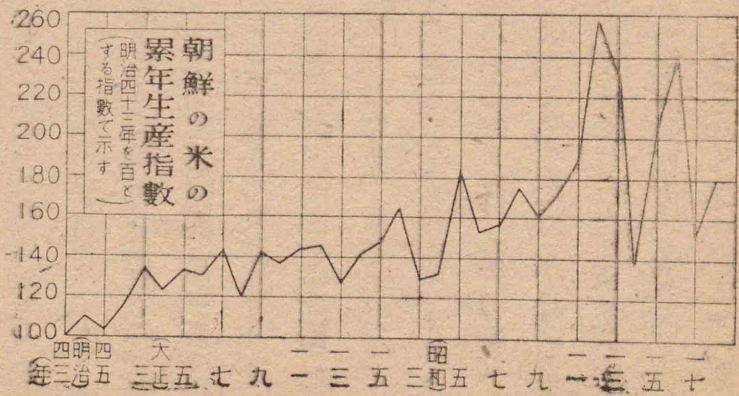
農産物中、最も重要なものは米で、本邦産米の四分の一を産するが、その半分を地元で消費し、四割以上を中央地域に移出し、臺灣と共に中央地域に對する重要な米の供給地となつてゐる。又、滿洲事變や支那事變に際しては、位置の關係から、半島の米が多く戦地へ送られた。南鮮の都市には精米工場が多く、群山・木浦・釜山等の諸港は、いづれも米の積み出しが盛んである。朝鮮米はもと品質が劣り、一段歩當り収量も少かつたが、併合以來、中央地域の各地から、それとこの地の風土に適する品種を移して改良したので、質・量共に向上し、移出の因をなすに至つた。

次に次ぐものは、麥類と雑穀とである。殊に粟・稗・大豆・玉蜀黍・そば等の雑穀は、そのまゝ常食したり、米や麥と混合したりして、住民の主要食糧となつてゐるから、産額はいづれもわが國總産額の過半を占めるが、なほ不足するので、滿洲から多く輸入してゐる。



牛の分布 (昭和十五年迄)

耕作に畜力をよく利用してゐることも、朝鮮農業の特色の一つである。農家はいづれも牛を飼ひ、頭数はわが國總數の半ばに近く、中央地域へ移出されるものも多い。しかし、専ら役畜や肉牛で、乳牛は極めて少い。又、農家では豚を多く飼ひ、頭数は臺灣に次いでゐる。山地は全土の七割以上に達し、鴨綠江・豆滿江等の上流の山地には、朝鮮松・落葉松の森林が廣く繁茂し、林業が盛んである。しかし、その他は一般に森林が甚だ貧弱で、禿げ山が多い。これは火田民のためや濫突



の燃料などとして永い間濫伐されるまゝに放置してゐたため、森林は荒廢し、洪水も屢々起るやうになつたが、今では植林事業が進められ、大いに面目を改めつゝある。

西側の海岸は遠淺で到る所に干潟が發達してゐるので、それを利用した干拓地が各地に見られる。西海岸は一帶に潮汐の干満の差が甚だ大きく、仁川附近では八米に達する。随つて、灣は多いが、港としての條件はよくない。しかし、干潟と潮汐とを利用し、更に雨の少い氣候と夏の高溫とによつて製塩に適してゐる。製塩は日光による天日法で、中央地域の製塩に比べて經費も少く、質もよく、産額は中央地域の半ばに達してゐる。

朝鮮では、もと漁業を賤しき、殆どこれを行なはなかつたが、併合以來急激に發展して、重要な産業となつた。殊に、山口縣や長崎縣などから出漁する漁船の活躍は、この發展を促す上に大きな力となつた。

東側の海岸は單調で、出入に乏しいが、この沿岸から朝鮮海峽にかけては、寒流と暖流との出會ふ所で、魚類に富み、漁業は極めて盛んである。

漁獲の最も多いのは、鱈・めんたいで、殊に鱈の世界的漁場である。そのほか、鯨・鰈・鱈等、寒海性の魚類が多い。これに對し、西海岸では海苔や貝類の養殖が行なはれ、漁獲物には

鱈・ぐち等が多く、東岸とは種類が違ふ。これらの漁獲物はいろいろ加工されて、大部分水産製造物となり、その産額が漁獲高と匹敵することは、朝鮮水産業の一つの特色である。鱈から取る魚油・搾り粕が最も多く、魚油製造は朝鮮に於ける近代工業の發達の上に注目すべきものがある。これに次いで鱈・めんたいの干物が多い。

地下資源の開發は、一般にまだ日が浅いので、産額は北方地域と同じくらいであるが、將來の發展が豫想されてゐる。金・鐵・石炭・黒鉛等のほか、輕金屬の原礦である明礬石・マグネサイトの産がある。併合前、わが國や歐米諸國は韓國政府から特許を受けて採掘してゐたが、わが國は當時からその調査に貢獻し、併合以來の鑛業發展の基をなした。

地下資源の分布は北鮮を主とするが、全地域に互つてゐる。中でも金と鐵とはわが國での主産地であり、兼二浦・清津等では製鐵、鎮南浦では金の製鍊が行なはれる。黒鉛の産は世界的であり、タングステンもわが國に於ける重要な産地となつてゐる。最近の開發にかゝる北鮮のマグネサイトや明礬石は、水力發電に伴なふ輕金屬工業の急速な發展につれて、益々重要となつてゐる。

朝鮮の工業は農業に次いで重要であり、原料を自給する食糧品工業と化學工業とが主で、そ

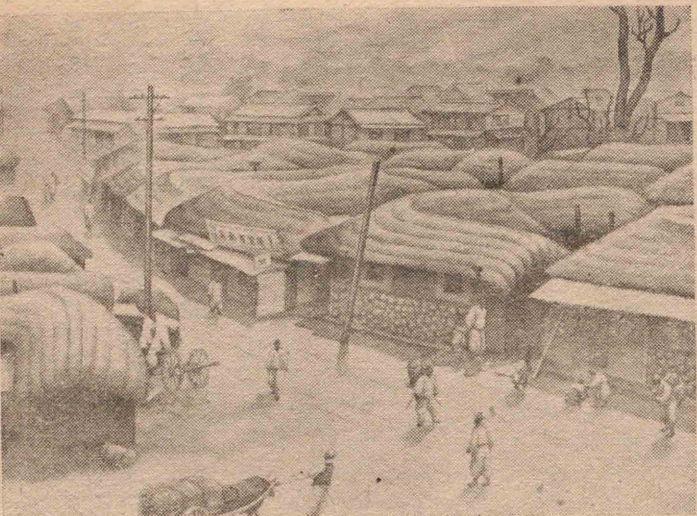
のほか各種の工業が行なはれる。生活必需品の食糧・衣料・陶器・金屬器具等の製造は、各地の原料を使用して、古くから家内工業として行なはれてゐたが、生産が少く、輸入に仰ぐ部分が多かつた。併合以來、工場工業が興り、殊に近年の發展は目ざましい。

南鮮の精米と並んで、製粉は京城・仁川・平壤・鎮南浦等に盛んである。これは中部に多い小麦を集めるにも、又、積み出すにも都合のよい位置にあるからである。衣料の麻・綿・絹は、いづれも原料を自給し、從來の家内工業と共に、工場工業として生産されるが、なほ需要に應ずることができない。

化學工業では、鱈を原料とする魚油が、東岸の漁港附近で盛んに製造され、胡麻・綿の實・大豆等を原料とする植物油が、西側の農産地の都市で作られる。最近、發電事業が北部の山地を中心として著しく進み、鴨綠江の上流や下流などに、世界的な大發電所が建設され、この方面に化學工業が急速に發達した。興南その他、北鮮東岸の所々に人造肥料を始め、各種化學工業が行なはれて活氣を呈してゐる。又、滿洲との交通が進むにつれ、清津・城津・興南・新義州・鎮南浦等の各地では、滿洲の資源をも用ひて、製鐵その他の重工業が興されてゐる。

都市は府・邑と稱せられ、村は面と呼ばれてゐる。農村の中心をなす在來の都市は、城壁を

朝鮮の民家



めぐらしてゐたが、今は概ね取り除かれてゐる。商業が發達した現在でも、これらの都市では、農産物や日用品を取引きする昔ながらの市が開かれる。市は多く定期に開かれ、近在の人々が集つて農産物を賣り、日用品を買つて行く。取引きは主に廣場や道路などの露天で行なはれる。大邱や京城の市は特に有名で、取引きも盛んである。このほか、行商が各地に廣く行き渡つてゐる。商工業の發達につれて新興の都市も次第に發達してゐる。

農業その他の産業が振るはなかつた時代には、滿洲への移民や出稼ぎが盛んに行なはれた。特に北鮮と接する間島地方へ多く出かけ、これらの移民によつてこの地方の耕地が開かれたのである。中央地域の各地方へ移住するものも多く、各方面に勞力を供給してゐる。

關東州も、農業の上では朝鮮とよく似てゐる。丘陵地が多く、耕地は總べて畠で、主要食糧

の雑穀や落花生などを作つてゐる。朝鮮よりも雨が少いだけに、製塩には一層有利で、朝鮮より五割以上も多く産する。この地もわが治下に入つてから、その發展が著しく、農産は約九倍に増加してゐる。商業はもちろん、工業も、滿洲の表玄關といつた意味で榮えてゐるのであつて、大連には大豆から豆粕・豆油を製造する油房その他の工場が多い。又、この港を経て滿洲の豆類・石炭・鐵等が中央地域へ送られ、中央地域からの機械類・雜貨等がこゝを経て滿洲へはいる。

第五 南方地域

一 南進日本の基地

南方地域は四周に海をめぐるして、國防の第一線をなしてゐる。即ち、南洋群島は西太平洋の眞中に散點する一千數百の島々からなり、中央地域よりも大きな廣がりをもち、東にはハワイ・ミッドウェーがあり、南には間近くパプア（ニューギニア）やビスマルク・ソロモン諸島を控へてゐる。臺灣は海峽を隔てて南支那に對し、南は小島づたひにフィリピンへ達し、又、本島に屬する新南群島は、略々南支那海の中央にあつて、インド支那や東インド諸島に近づいてゐる。このやうな位置にある南方地域が、國防上極めて重要なことは、おのづから明らかであらう。

南方地域が、大部分、熱帯に横たはつてゐることも、一つの特徴である。溫帯を本據とするわが國が、これらの熱帯地方を統治するやうになつたのは、いふまでもなく日清戰役及び第一

次歐洲大戦後のことである。以來南方地域は、國民に熱帯地經營の貴重な體驗を與へたばかりでなく、多くの熱帯資源の供給地ともなつた。又、われ／＼はこの地域で始めて、言語・風習・生活様式等の異なつた住民を導いて、共榮の實をあげる任務を擔當する機會を得た。さうして、わが官民のたゆみなき努力によつて、着々その成果を收めることができた。

臺灣では、領有以來、人口は約二倍となり、産業も面目を一新した。統治以來、年月の淺い南洋群島に於いても、減少し續けてゐた原住民の人口は増加するやうになり、農業に適しないと斷念されてゐた土地を用ひて、年産數百萬圓の砂糖を作り出すことに成功し、又、殆ど顧みられなかつた漁場を開拓して、多量の漁獲を擧げてゐる。これらの多くの經驗が、今日大東亞の南方諸地域を經營するに當つて、いかに役立つてゐるかを思ふ時、南方地域の果して來た南進據點としての役目は、一層よく理會することができらるであらう。

二 自然の特色

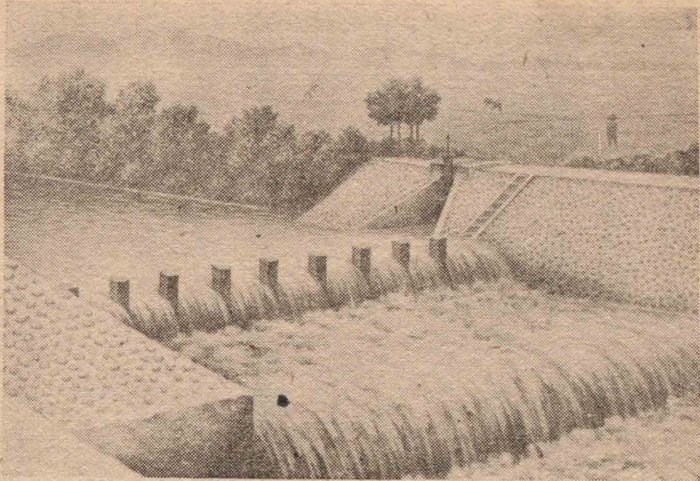
南方地域の氣候は、その位置からもわかるやうに、熱帯性で、氣溫は年中高く、夏と冬の差が甚だしい。臺灣では夏・冬の差が十度内外、南洋群島では一度乃至二度であるから、四季の別のはつきりしない、いはゆる常夏の氣候である。しかし、驟雨性の雨が多く、單調な氣候に變化を與へてゐる。

臺灣に就いていへば、大部分は年雨量二千耗前後で、中央地域の南西部と略々同じであるが、所によつては三千耗以上に達する。北部では凡そ十月から三月まで、南部では凡そ五月から九月までが雨季で、この間に年雨量の七割乃至九割が降る。殊に南部の雨季には、屢々颱風が襲つて暴風雨となり、又、洪水を起すことがある。これに反して、乾季には毎日晴天が續く。このやうに北部と南部とで、雨季と乾季とが反對になるのは、主として季節風と高い臺灣山脈との影響に基づいてゐる。

南洋群島は、北では大體北東貿易風が年中吹くが、赤道に近くなると一般にずつと弱くなり、又、季節による風向の變化が見られる。年雨量は臺灣より一般に多い。しかし、廣大な範圍に散在する島々であるから、年雨量も二千二百耗餘りのサイパンや、五千耗に近いボナベなどさまざまで、場所によつて氣候に相當な違ひがある。

熱帯氣候は南方地域の産業その他にいろ／＼な影響を及してゐる。四季の變化がないので、生活の上に刺戟がなく、それが仕事の能率を低めてゐる。しかし、作物には甚だ好都合で、生

臺灣平野の圳



育が早く、又、一年を通じて耕作ができる。米は收穫までに、中央地域では約五箇月かゝるが、臺灣では約四箇月である。随つて二期作が普通である。もつとも雨季の豪雨は、屢々洪水を起し、乾季には反對に旱害に苦しむことがある。そこで、かうした災害に對して、古くから埤と呼ぶ溜池や、圳と呼ぶ水路が普及してゐる。これは同じやうな災害に苦しみながら、灌漑施設の見るべきものがなかつた朝鮮と比べて、著しく異なる點である。バナナやパイナップルのやうな特別な果實の栽培が行なはれるし、街路樹や野外植物の多くは、年中青々と茂つてゐる。平地には到る所榕樹、林投樹、檳榔樹等が見られ、他の地域とは違つた南國の風景に趣を添へてゐる。

臺灣の中央を走る臺灣山脈は幅も廣く、極めて高峻で、中には四千米に近い新高山・次高山等、わが國で最も高い山々がある。この山地は五、六百米

ぐらゐまでは熱帯性の森林で、それ以上になると、樟・椎・檜等を主とする暖帯林が現れ、更に高まると檜・杉等の温帯林、三千五百米以上になれば、高山植物帯となるといふやうに、高さによる植物帯の變化が見られる。森林面積は全土の約七割を占めてゐる。そのうち、温帯林は林業上最も重要で、本島の一大富源をなしてゐる。殊に阿里山・太平山等の檜は名高く、森林鐵道によつて運び出され、山麓各地に製材業を興してゐる。中でも嘉義は最も有名である。樟から取れる樟腦は、世界産額の過半を占めてゐる。しかし、一般に山地が非常に険しくて、木材の搬出に不便なため、林業の發達は未だ不十分で、却つて林産物を移入してゐる。

三 産業と住民

臺灣山脈の東側には、幅の狭い臺東山脈が並走し、その間の細長い縦谷が僅かに開發のできる場所である。しかも、東側の海岸は單調である上に、著しい斷崖をなしてゐる。川も短い急流で、流域も狭く、谷の出口や海岸に狭い平地があるのみである。随つてこの方面は、一般に交通も不便で開發がおくれてゐる。これに反して、西側には長大な川が多く、下流一帯には廣い沃野が連なつてゐる。この西部平野は一般に耕地として開けてゐるが、臺地の多い北部に比

北部の農耕地は中・南部ほど廣くないが、溜池がよく利用されて、蓬萊米が盛んに作られる。臺地には茶畠が廣く分布し、茶の産額は静岡縣に次いで多い。中央地域の茶が綠茶に製せられるのに反し、臺灣では主に烏龍茶・紅茶に製せられる。ポンカンなどの柑橘類も、主として北部に産する。

水田の耕作や甘蔗栽培には、水牛が盛んに使役される。水牛は本島の最も重要な役畜で、その數も農家一戸當り平均約一頭の割合である。これに次いで、黄牛の使役も盛んである。そのほか、大抵の農家では數頭の豚を飼ひ、鶏やあひるなども飼つてゐる。このやうに、家畜・家禽を多く伴ふのも、臺灣農業の一つの特色であり、西方地域と似た點でもある。豚・家禽は共に中央地域の約二倍に當つてゐる。

工業は、製糖・製茶・罐詰・醸造等、この地の生産物を加工する食糧品工業が主であつて、北方地域とよく似てゐる。しかし、近年は日月潭その他に於ける發電事業によつて、各地に新しい化學工業や金屬工業が興つてゐる。

地下資源の開發はまだ盛んでなく、寧ろ將來を期待されてゐる。基隆附近には石炭・金・銅、北西部には所々に石油及び天然ガスを産する。

水産では、高温と乾季とを利用する天日製塩が中・南部の海岸で盛んに行なはれる。これもわが領有後著しく發達したもので、島内食用塩の需要を満たして餘りがあるばかりでなく、最近激増した工業用原料として大きな役割を果してゐる。中央地域へ多量に移出されるほか、北方地域や、西方地域の水産加工用としても送られ、又、南支那方面へも輸出されてゐる。

元來、本島人は漁業を賤しむ風があり、隨つて領臺當時は、養殖業のほかみるべきものがなかつた。然るに、その後内地漁業者が渡來し、遠洋漁業を開始してから、急速の進展を示した。基隆・高雄・蘇澳が主な根據地で、鮪・鱧等の漁獲が多い。又、いろいろの水産製造物も産する。西海岸は干潟が發達してゐるので、養殖業が古くから盛んである。

臺灣の産業の中心地である西側の平野は人口も多く、その密度は中央地域の平均よりも高い。主な都市も皆この平野にあり、交通もよく發達してゐる。しかし、海岸は出入に乏しい上に、一帯に遠淺で干潟が連なつてゐるので、港には適しない。たゞ北部の基隆、南部の高雄は良港である。

臺灣の住民は、嘗つて南支那の福建省や廣東省から移住したものが大部分を占め、本島人と呼ばれてゐる。生活や風習など、支那と類似したところが多く、例へば都市も從來は支那風に

城壁をめぐらすのが普通であつた。わが領土となつてからは次第に内地風に改められ、城壁なども除かれた。

このほか、十餘萬の原住民があり、その一部は既に固有の言語・風俗を失ひ、本島人と雜居して殆どその風に同化してゐる。他の多くは一般に高砂族と呼ばれてゐるが、多くの種類に分れてゐる。高砂族の大部分は山地に居住し、文化はまだ一般に進んでゐないが、銳意教化指導に努めてゐるので、その向上が著しい。南方戦線に輝かしい功を立てた、かの高砂義勇隊の活躍は、注目をひくのである。

新南群島は、臺灣に屬する二十餘の島々である。いづれも小さい珊瑚礁で、僅かの移住民が燐礦を採掘してゐる。本群島は大正七年にラサ島燐礦會社の探検隊によつて調査され、事實上わが領土となり、同十四年以來採掘が營まれることになつた。昭和十四年、臺灣總督府はその領有を明らかにして、高雄州の一部に編入した。

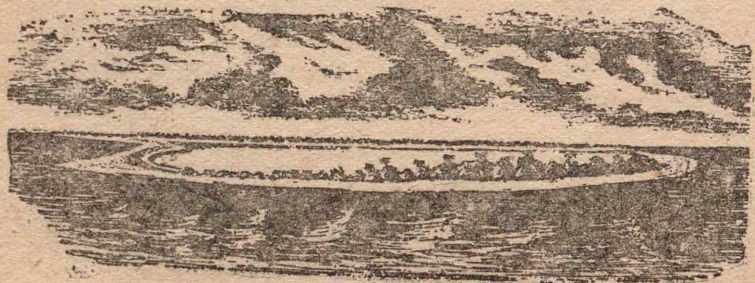
四 南洋群島

南洋群島は、主に珊瑚礁や火山島から成り、大體三つの區域に分たれる。そのうちマリアナ

群島は富士火山帯の續きて、多くの火山が聳えてゐる。これに對し、マ
ーシャル群島は低い環礁が多く、又、カロリン群島は珊瑚礁を主とし、
中に火山のある島もある。これら多數の島々は、いづれも小島であるか
ら、總面積は東京都と略々等しく、農耕に適する平地にも乏しい。隨つ
て、南洋群島は産業上よりも、國防的最前線として極めて重要である。

南洋群島の一環礁

原住民は約五萬人のミクロネシヤ人で、わが統治以前は、他の太平洋
諸島と同じく、椰子の實やパンの實などを取り、タロ芋などを作り、又、
珊瑚礁の沿岸で漁獲をするなど、原始的な農業や漁業を營み、一般に低
い生活を送つてゐた。歐米人の來島以來、結核その他の病氣が廣がつて、
人口は減少を續けてゐたが、わが國が統治するやうになつてから、衛生
教育・産業等の各方面に力を注いだので、全島が明かるく活氣づき、總
べてが面目を一新した。原住民の人口がひとしく減少しつゝある太平洋
諸島の中で、獨り南洋群島のみが増加を示してゐることは、よくこの間
の事情を物語るものである。内地人は年々増加して約八萬人にのぼり、



原住民よりも多くなつてゐる。最初は沖繩や小笠原群島など比較的風土の似た地方からの移住者が多かつたが、次第に各地域からの移住も行なはれてゐる。

サイパン・ロタ・テニアン等の島々では、甘蔗を作り、それに伴ふ製糖業も興つて、今では、南洋群島の主産業となつてゐる。嘗つて、イスパニヤやドイツが領有した時代には、甘蔗の栽培は全く望みがないとして顧みられなかつたが、わが當事者が殆ど全世界の品種を集めて研究した結果、遂に成功したものである。その他、場所によつてはカツサバやコーヒーなども栽培される。米・麥の産はないが、野菜類は自給してゐる。又、アンガウル島では盛んに燐礦を採掘してゐる。

近海には、中央地域の漁船が出漁するほか、南洋群島を根據地とする漁業も著しく發達して、近海はもとより、遠く南方諸地域に互る廣大な漁場に活躍してゐる。鮪・鰹の漁獲が多く、中央地域へ移出されるばかりでなく、鰹節の製造も盛んとなつた。

教科書番號 51ノ二

昭和十九年九月九日印刷
昭和十九年九月十三日發行
昭和十九年九月三十日翻刻發行

著作権所有

著作
者兼
發行
者

文
部
省

中等地理 二

定價金 三十九錢

發行所
東京都神田區岩本町三番地
中等學校教科書株式會社
代表者 山本慶治

昭和十九年九月十四日
文部省検査日

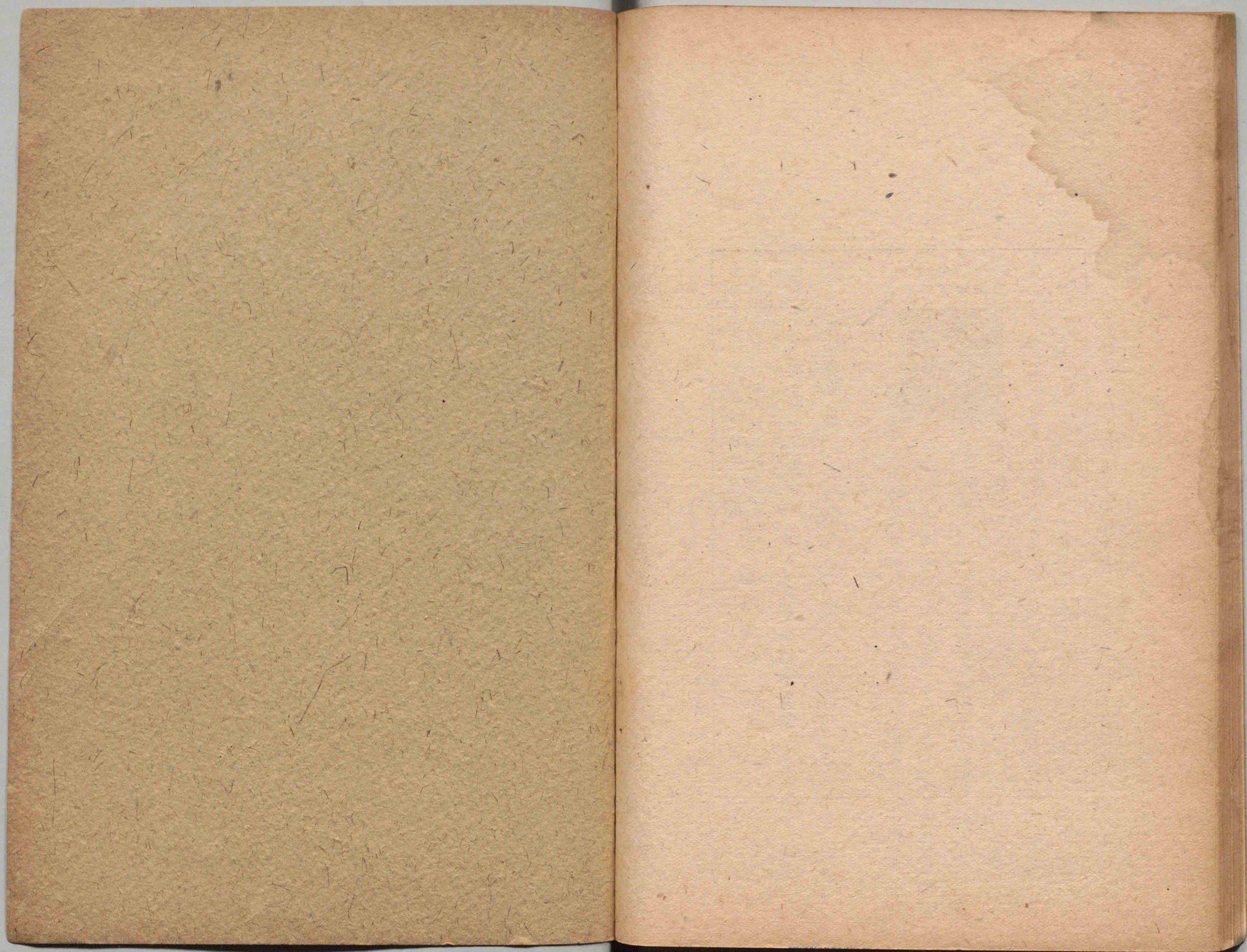


印刷所

東京都小石川區西江戸川町二十一番地
富士印刷株式會社
代表者 佐藤精亮
(東東二〇三)

發行所

中等學校教科書株式會社



広島大学図書

2000302557



文庫
44
557